

# PENTAX®

## SFXN

## SFXN QUARTZ DATE

使用説明書



このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

SFX<sub>N</sub>は「オートフォーカス」「内蔵オートストロボ」「マルチプログラム自動露出」「モータードライブ」などの機能を装備していますから、あらゆる撮影目的に合わせてお使いいただける高精度なシステム一眼レフカメラです。

また、SFX<sub>N</sub>クォーツデイトはオートカレンダー機能を持ち、撮影した「年月日」または「時間」を同時に写し込むことができるカメラです。

この使用説明書は、SFX<sub>N</sub>およびSFX<sub>N</sub>クォーツデイト用です。ご使用前に使用説明書の関係部分をよくお読みのうえ正しくお使いください。



各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて、各ページを読みながらご覧いただくことができます。

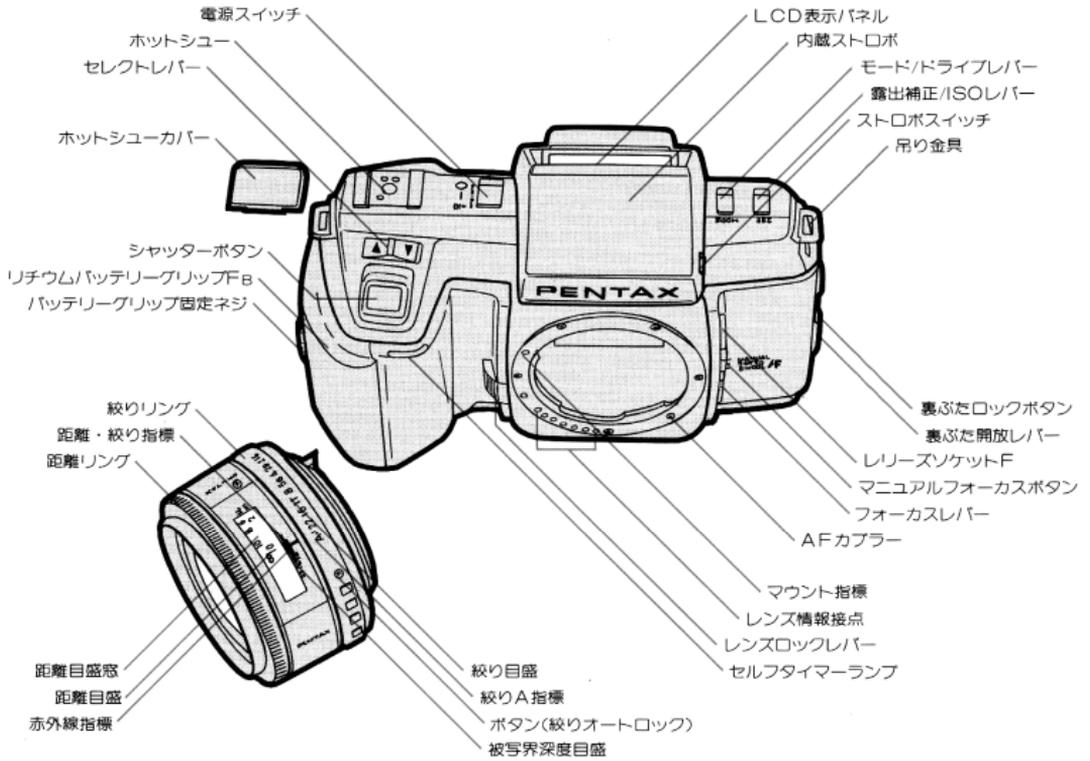


SFX<sub>N</sub> Fズーム35~70mm F3.5~4.5付



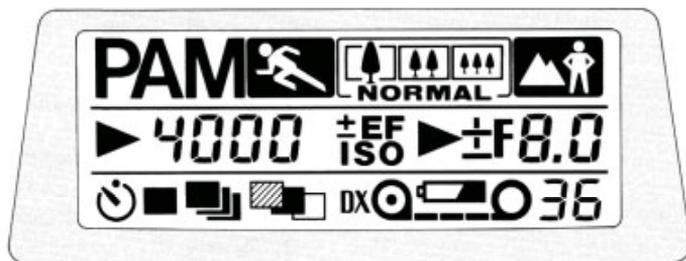
SFX<sub>N</sub> クォーツデイト

# 各部の名称

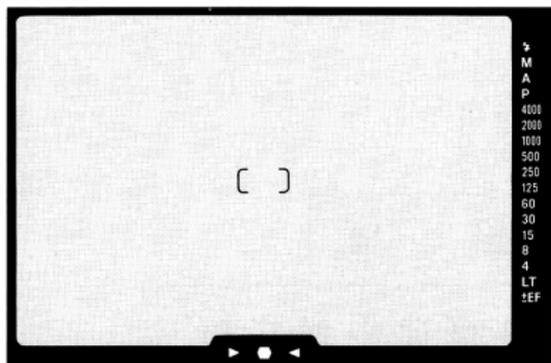


表示パネルの表示ガイド	2	シャッター優先自動露出の使い方	36~37
ファインダー内の表示ガイド	3	絞り優先自動露出の使い方	38~39
●準備編	4~11	マニュアル露出の使い方	40~41
ストラップを取り付けます	5	bulb [1/バルブ・125(1/125秒)の使い方	42~43
電池を入れます	6~7	クリアーボタンの使い方	43
レンズを取り付けます	8~9	オートフォーカスの苦手な被写体	44
視度調節をします	10	マニュアルフォーカスでのピントの合わせ方	45
アイカップFを取り付けます	10	マット部分でのピント合わせが必要なとき	46
電源スイッチを操作します	11	露出補正の使い方	47~48
シャッターボタンを操作します	11	オートブラケット撮影	49
●基本撮影編	12~32	メモリーロックの使い方	50~51
プログラム自動露出に合わせます		セルフタイマー撮影	52
[ノーマル・高速・深度優先プログラム]	12~15	トリプルセルフタイマー撮影	53
1コマ撮影にします	16	ペンタックス・専用オートストロボの使い方	54~57
AF[オートフォーカス]に合わせます	16	被写界深度・赤外線指標の使い方	58~59
カメラの構え方・カメラぶれの防ぎ方	17	クォーツスタートの使い方	60~62
ピントを合わせます	18~19	電池について	63
フォーカスロック撮影を覚えましょう	20	ファインダー内および表示パネルの露出警告表示	64
ズームレンズを操作します[ズームレンズご使用の場合]	21	SFX <sub>N</sub> と各種ペンタックスレンズを 組み合わせたときの機能	65
DXフィルムを入れます	22~24	プログラム線図・測光/連動範囲	66~67
フィルム感度の確認と感度の合わせ方	25	ソフトケース	68
撮影をします	26	アクセサリ	69
フィルムを巻き戻し、取り出します	26~27	取り扱い上の注意	70~71
内蔵ストロボで撮影します	28~32	仕様	72~73
AFスポットビームを使います	32	こんなときは?	74~75
●いろいろな機能の操作編	33~67	お問い合わせは次の各サービス窓口へ	76~77
SMC PENTAX F[レンズ]と SFX <sub>N</sub> での「露出方式」の組み合わせ	34~35	アフターサービスについて	79

## 表示パネルの表示ガイド

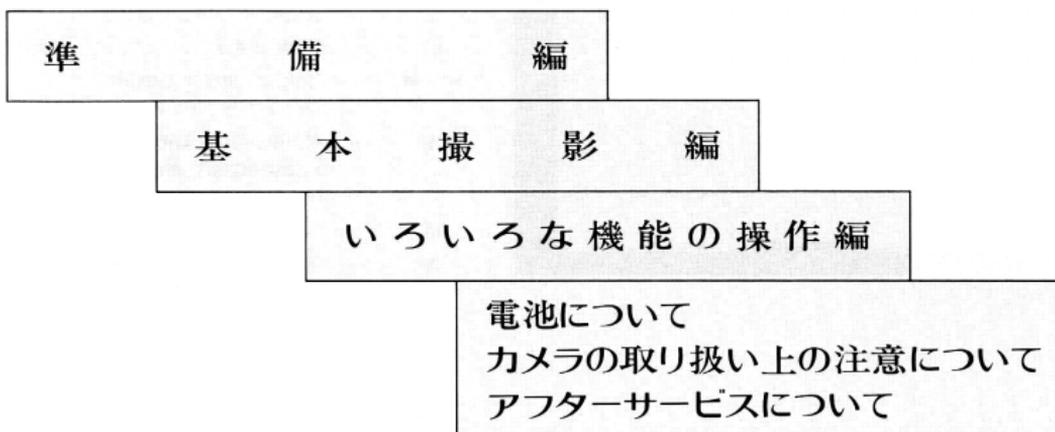


- |             |   |              |                                     |
|-------------|---|--------------|-------------------------------------|
| <b>P</b>    | 「プログラム自動露出」の表示  | <b>± 4.0</b> | 「露出補正」の補正值を表示<br>[+4~-4の0.5段階ごとに表示] |
| <b>A</b>    | 「シャッター優先・絞り優先自動露出」の表示   | <b>F8.0</b>  | 「絞り値」の表示<br>[F1.2~F90の0.5段階ごとに表示]   |
| <b>M</b>    | 「マニュアル露出」の表示  |              | 「セルフタイマー撮影」の表示                      |
|             | ノーマルプログラム「テレ」の表示  |              | 「1コマ撮影」の表示                          |
|             | ノーマルプログラム「標準」の表示  |              | 「連続撮影」の表示                           |
|             | ノーマルプログラム「ワイド」の表示   |              | 「オートブラケット撮影」の表示<br>[3コマ連続段階露出撮影]    |
|             | 「高速優先プログラム」の表示  |              | 「トリプルセルフタイマー撮影」の表示<br>[セルフ3コマ連続撮影]  |
|             | 「深度優先プログラム」の表示  | <b>DX</b>    | 「DXフィルム」の使用表示                       |
|             | 「シャッター・絞り」の優先表示   |              | 「フィルム」のセット状態の表示                     |
| <b>4000</b> | 「シャッター速度」の表示、<br>(4000は1/4000秒・30"は30秒)および「フィルム」感<br>度」の感度表示[6~6400、1/3段階ごとに表示] |              | 「電池消耗」の表示                           |
| <b>ISO</b>  | 「フィルム感度」の表示   | <b>36</b>    | 「撮影枚数」の表示[0~99]                     |
| <b>±EF</b>  | 「露出補正」の表示   |              |                                     |



- [ ] — 「フォーカスフレーム」の表示  
[オートフォーカスでピントを合わせる所]
  - ▶ ◯ ◀ — 「フォーカス」の表示  
[ピントの状態を知らせます]
  - ◯ — 「合焦」の表示[ピントが合っています]
  - ▶ ◀ — 「前ピン・後ピン」の表示  
[ピントが合っていません]
  - ⚡ — ベンタックス・専用オートストロボ使用時の「ストロボ充電完了」表示  
[内蔵ストロボは、ファインダー横のランプ表示]
  - M — 「マニュアル露出」の表示
  - A — 「シャッター優先・絞り優先自動露出」の表示
  - P — 「プログラム自動露出」の表示
- 
- 4000 }  
2000 }  
1000 } — 「シャッター速度」の表示  
500 } [4000は1/4000秒・60は1/60秒]  
250 }  
125 }  
60 }
  - 30 }  
15 } — 「手ぶれ注意のシャッター速度」の表示[橙色]  
8 }  
4 }
  - LT — 「シャッター速度が1/2秒以下」の低速表示[橙色]
  - ±EF — 「露出補正」の表示

説明書を効果的にご使用いただくために  
この説明書は次のように分けられています。

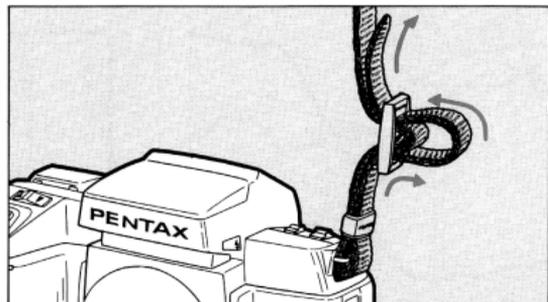


●一眼レフは初めてなので、とにかくSFX<sub>N</sub>がどのようなカメラかを操作してみたい、という方は、「準備編」と「基本撮影編」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。

●「電池について」「カメラの取り扱い上の注意について」「アフターサービスについて」は必ずお読みください。

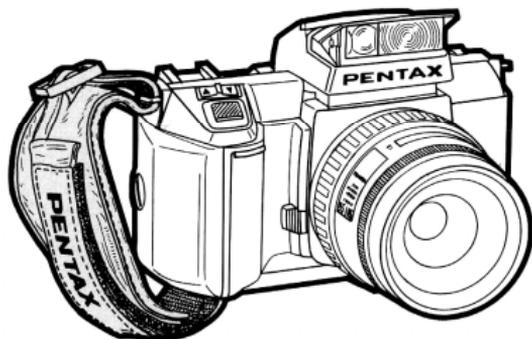
## 1. ストラップを取り付けます

# 準備編



図のように、ストラップを取り付けます。

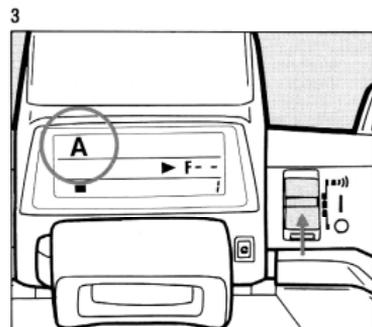
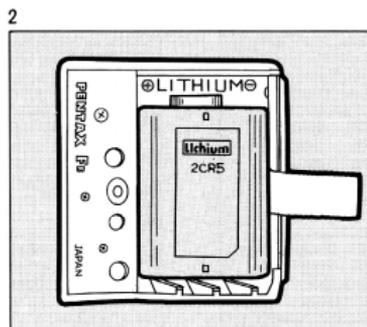
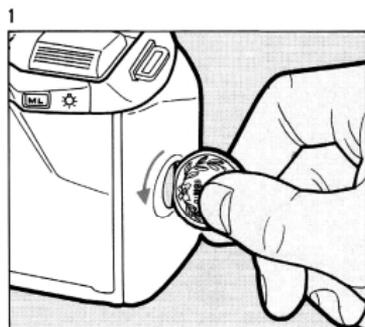
- 歩行中にカメラが揺れにくいように、腰より上に来る長さに調節すると良いでしょう。



グリップストラップF(別売)

5

## 2. 電池を入れます【リチウムバッテリーグリップF<sub>B</sub>】

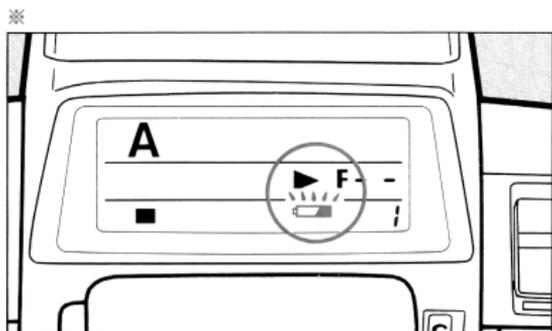


SFX<sub>N</sub>は電池で動きますから、操作をする前には必ずきめられたリチウム電池 **2CR5** を1個入れます。SFX<sub>N</sub>には、サンプル用に電池が添付されていますので、この電池でお試してください。

リチウム電池は下表の物、または同等品をご利用いただけます。

国内で購入できる電池		海外で購入できる電池	
2CR5 <sub>M</sub>	パナソニック製	EL2CR5	エバレティ製
2CR5	三洋電機製	2CR5	三洋電機製
2CR5	日立マクセル製	KL2CR5	コダック製
2CR5	ソニー-エナジーテック製	2CR5	ファルダ製
DL245	テュラセル製	DL245	テュラセル製

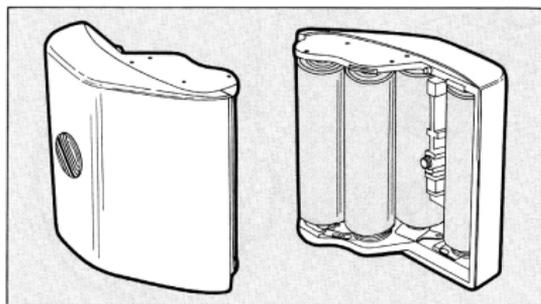
1. 図のように、バッテリーグリップ固定ネジをコインなどで左方向に回して取り外します。
2. バッテリーグリップ内側の⊕⊖表示に合わせて電池を入れ、バッテリーグリップを取り外したときは逆の手順で取り付けます。
3. 電源スイッチを  か  にし、図のように **A** の表示が出ることを確認します。



※電池が消耗したとき

図のように、が点滅したときは電池が減っていますから早めに交換してください。

[点滅中でもシャッターが切れなくなるまでは写せますが、早めに電池を交換しましょう。]

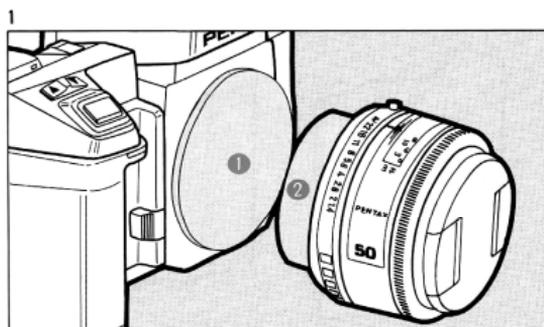


別売りアクセサリ「単3バッテリーグリップF<sub>B</sub>」は、単3形乾電池を4本取り付けて使用します。電池を入れるときは、 $\oplus$  $\ominus$ 表示に合わせて正しく入れてください。[ $\ominus$ 側を先に入れ、出すときは板バネ側 $\oplus$ から出してください。]

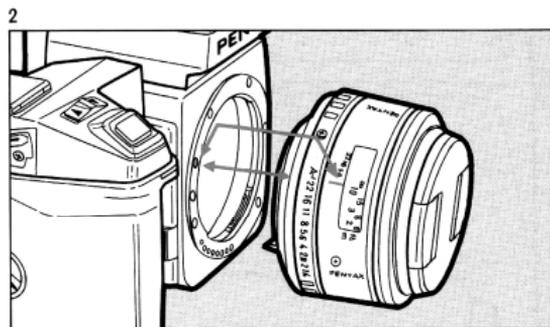
使用可能電池は単3形アルカリ乾電池 **LR-6** です。

- 単3形マンガン乾電池 **SUM-3** も使えますが、撮影本数は極めて少なくなるので、アルカリ乾電池の使用をおすすめします。
- Ni-Cd電池は使用できません。

### 3. レンズを取り付けます

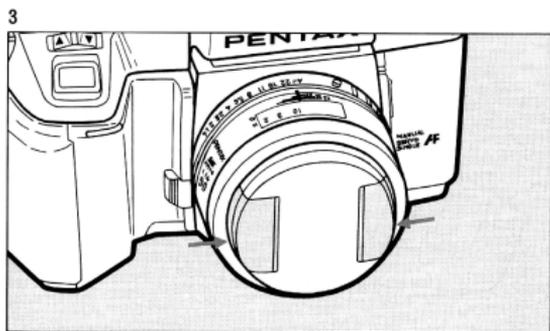


1. 図のように、①のボディカバーと②のレンズ後カバーを外します。

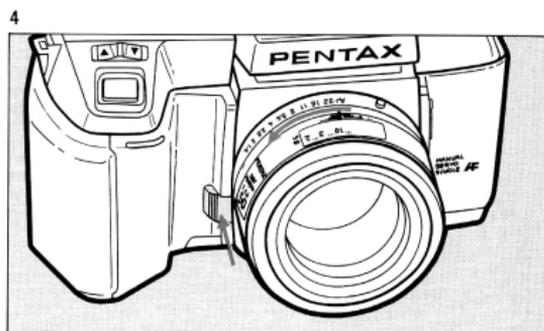


2. ボディとレンズの赤点指標を合わせて、レンズをボディのマウントにはめ込み、レンズを右方向[時計回り]に回して、「カチッ」という音がしたら、取り付け完了です。

- ボディカバーは工場出荷時のキズよけやホコリよけ用のものです。保管用には別売りの「ボディマウントキャップK」をご利用ください。



3. レンズの前キャップを図のように、両側の矢印部分を押し外します。

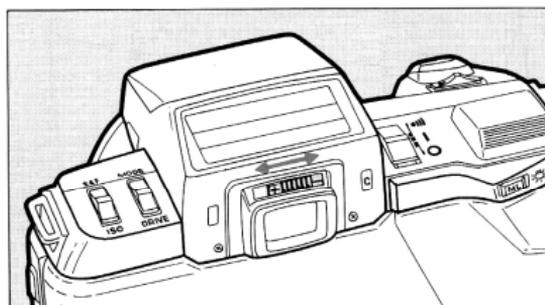


4. レンズを外すときは、図のようにレバーを押し込み、レンズを取り付けた時とは逆の方向に回して外します。

● ボディーやレンズのマウント面にレンズ情報接点やAFカブラーがあります。キズを付けたり、汚したりしないでください。汚れたときは、清潔な乾いた布で拭いてください。

9

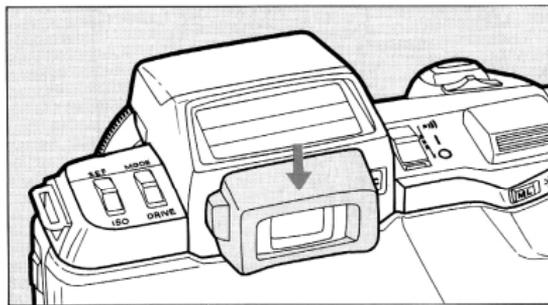
#### 4. 視度調節をします



ファインダー像がはっきり見えるように、視度を合わせてからご使用ください。

- 視度調節は、カメラを明るい方に向け、ピントは合わせない状態で視度調節レバーを左右に動かして、ファインダー中央のフォーカスフレーム[ ]の線が最もはっきり見えるところで止めます。
- 視度調節範囲は、+1.5～2.5D [ディオプトリー]です。

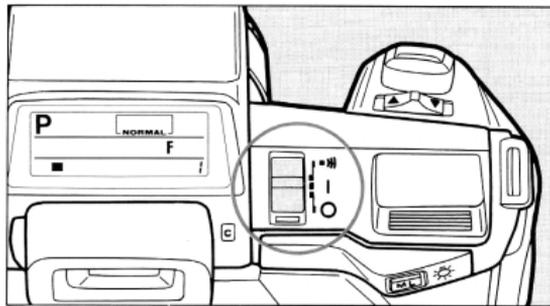
#### 5. アイカップFを取り付けます



アイカップFは、カメラのアクセサリ取り付け溝に差し込んで使用します。

- 別売りの「視度調整レンズM」や「マグニファイヤーF<sub>B</sub>」を使うときは、アイカップFを取り外してご使用ください。
- アイカップと視度調整レンズを併せて使いたいときは、別売りの「アイカップMII」と「67用視度調整レンズ」を組み合わせてください。

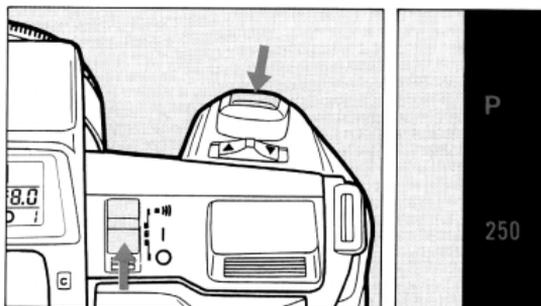
## 6. 電源スイッチを操作します



- 「入」 —  [ピントが合ったときやセルフタイマーを使ったときに「ピッピッ」と電子音で知らせます。]
- [電子音を消します。]
- 「切」 —  [使わないときは、必ずこの位置にします。]

[文中では、電源スイッチをスイッチと略します。]

## 7. シャッターボタンを操作します



スイッチを  にし、図のようにシャッターボタンを軽く押ししている間は、ファインダー内に露出計などの情報が表示され、さらに押し込むとシャッターが切れます。

- 指を離すと、約5秒後に表示が消えます。
- レンズキャップは必ず外して、明るい方に向けてシャッターを切ってください。

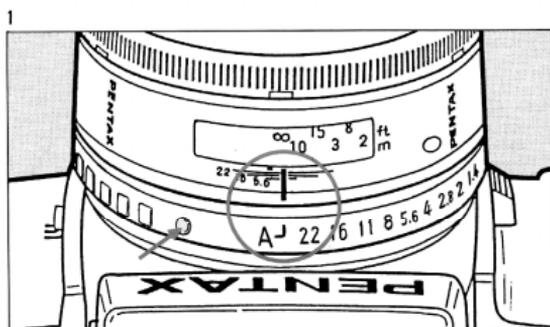
11

# 基本撮影編

プログラム自動露出は、絞りとシャッター速度が自動的に組み合わされるので、撮影が簡単になります。

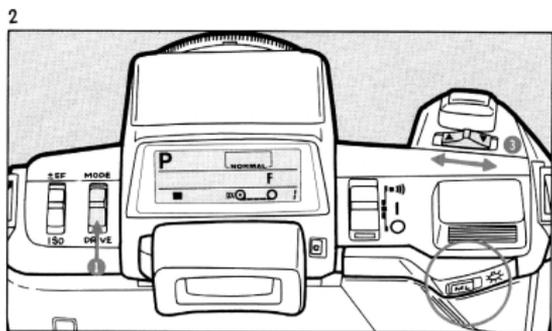


## 1. プログラム自動露出に合わせます



1. 図のように、レンズのボタンを押したまま、絞りリングを回して **A** にします。  
**A** にすると、絞りリングが固定されます。

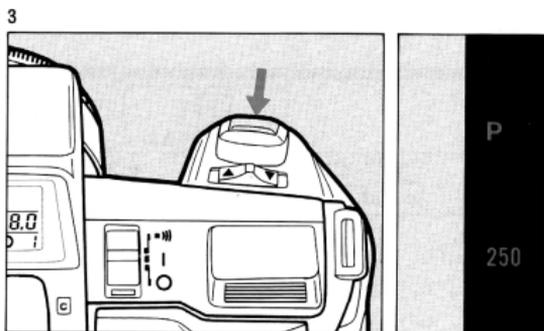
SFX<sub>N</sub>には、 [高速優先]・**NORMAL** [ノーマル]・ [深度優先]の3つのプログラム自動露出があります。基本撮影編での操作は、ノーマルプログラムでご説明いたします。



2. 図のように、①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを右か左に一回づつ動かして **P** と **NORMAL** の表示を出します。

● **▲▼** レバーは、右か左に押したままにすると早送りします。

○印の **ML** ボタンを一回押すと、表示パネルが照明されますので、暗い所での操作にご利用ください。ボタンを押してから、約8秒後に照明は消えます。なお、このボタンを押し続けると「メモリーロック[50ページ]」になります。

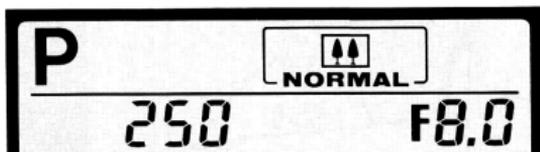


3. シャッターボタンを軽く押し、ファインダー内の右上に **P** と「シャッター速度」の表示が出ることを確認します。[表示パネルにも、シャッター速度と絞りが表示されます。]

● 緑色の4000~60[1/4000~1/60秒]のランプが光っていれば撮影できます。30~LT[1/30~1/2秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。  
[64ページの露出警告表示もご覧ください。]

[高速優先・深度優先プログラム]

ノーマルプログラム



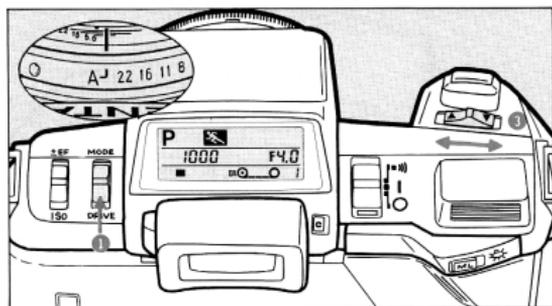
ノーマルは、スナップや風景などの一般撮影に適したプログラム自動露出です。

使用レンズの焦点距離に応じて、**☐☐☐** [ワイド]・**☐☐** [標準]・**☐** [テレ]と自動的に切り替わります。またズームレンズの焦点距離を変えたときも、自動的に切り替わります。ズームレンズのマクロ機構を使うときは、自動的に **☐☐☐** [ワイド] になります。

● SMCペンタックスAレンズ [SMC PENTAX-A] を使用した場合は、全て **☐☐** [標準] になります。

ノーマルプログラムとレンズの焦点距離

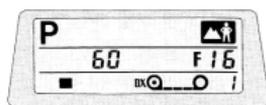
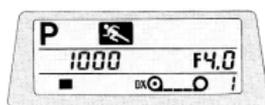
ノーマルプログラム	レンズの焦点距離
<b>☐☐☐</b> [ワイド]	40mm未満
<b>☐☐</b> [標準]	40mm以上110mm以下
<b>☐</b> [テレ]	110mmを超える場合



図のように、①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを右か左に一回づつ動かして、**☐** [高速優先]か **☐** [深度優先] にします。

高速優先

深度優先



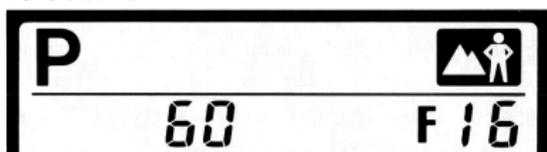
## 高速優先プログラム



速いシャッター速度が得られるようにプログラムされています。動きの速い被写体[スポーツ・動物写真等]、またカメラぶれの起こりやすい撮影などにお使いください。



## 深度優先プログラム

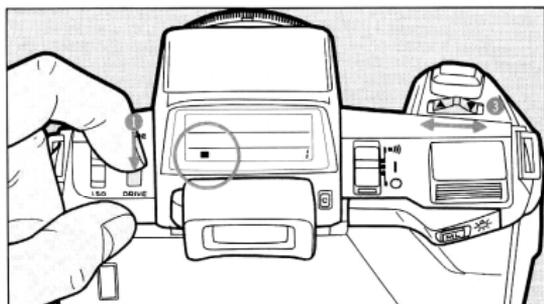


ピントの合う範囲[奥行]が深くなるようにプログラムされています。近景から遠景までシャープに撮影したいときや接写などにお使いください。



15

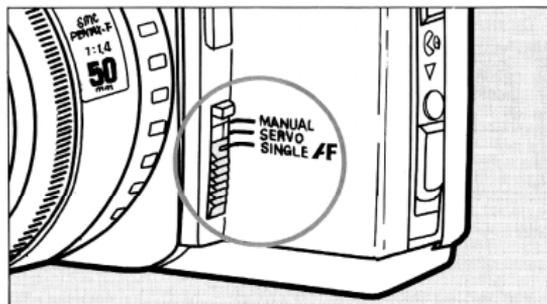
### 2. [1コマ撮影]にします



図のように、①のレバーを **DRIVE** [ドライブ] 側に押したまま、③の  レバーを動かして  表示にします。

-  **1コマ撮影** [シャッターボタンを押すたびに、1コマずつ撮影されます。]
-  **連続撮影** [シャッターボタンを押し続けると、連続撮影になります。]
-  **オートブラケット撮影** [49ページ]
-  **トリプルセルフタイマー撮影** [53ページ]
-  **セルフタイマー撮影** [52ページ]

### 3. [オートフォーカス]に合わせます



図のように、レバーの白線を **SINGLE** [シングル] または **SERVO** [サーボ] に合わせます。

#### オートフォーカス

**SINGLE** [レンズが自動的に作動し、ピントが合うとシャッターを切ることができます。]

**SERVO** [画面中央の被写体が動けば、ピントが合うように追いつけます。シャッターは、ピント合わせに関係なく切ることができます。]

**MANUAL** マニュアル

**MANUAL** [手動でピントを合わせる「マニュアルフォーカス」です。45ページ]

## 4. カメラの構え方・カメラぶれの防ぎ方

### ●横位置



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- シャッターボタンは息を止めて指先で静かに押します。〔強く押すとカメラぶれしやすくなります。〕
- 木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させる方法などを利用します。

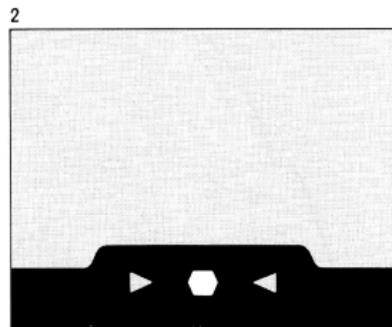
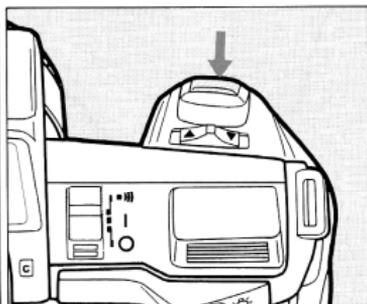
### ●タテ位置



- 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは三脚と、別売りの「ケーブルスイッチF」をご利用ください。
- 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

17

## 5. ピントを合わせます



フォーカス表示	内 容
○ 〔緑 色〕	合焦表示 ピントが合った撮影ができます。
..... ▶ ◀	ピント合わせができないときです。同じ被写体の明るい部分に合わせ直すと合焦する場合があります。「オートフォーカスの苦手な被写体」44ページをご覧ください。暗い場合は、ストロボ撮影をご利用ください。
◀ 〔赤 色〕	撮影距離が近いのでピントが合いません。もう少し離れてください。
..... ▶ ◀	Fズームレンズのマクロ(MACRO)のときに、点滅表示します。
..... ▶ ◀	▶ =撮影距離が近いのでピントが合いません。 ◀ =撮影距離が遠いためピントが合いません。

1. 写真のように、フォーカスフレーム [C] の所にピントを合わせたい物を持ってきて、シャッターボタンを軽く押します。
  2. ピントが合うと、図のようにファインダー内の [C] が緑色に光って、「ピッピッ」という電子音が聞こえます。
- [▶◀] が点滅を続けているときは、撮影する距離が近すぎたり、「オートフォーカスの苦手な被写体[44ページ]」でピント合わせができないときです。



3. さらにシャッターボタンを押し込むと撮影ができます。

- 作動中はレンズの距離リングに手をかけたり、回転を妨げたりしないでください。

#### A F シングル撮影

- ピントが合うまでシャッターは、切れません。
- シャッターボタンを軽く押し、 が光っている間は、ピントが固定[フォーカスロック]されています。「フォーカスロック撮影[20ページ]」をご覧ください。」
- 一度合うとピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離し、押し直します。
- シャッターボタンを急に押し込んだ場合でも、ピントが合ってからシャッターが切れます。
-  連続撮影で、動きのある被写体を撮影するときは、ピントが合うとシャッターが切れる「AFシングル」を使うと便利です。

#### A F サーボ撮影

- ピント合わせに関係なくシャッターを切ることができます。シャッターボタンを軽く押し続けていればピント合わせが連続して行なわれ、動く被写体を追いつけます。
-  が光っているときにシャッターを切ると、ピントが合った写真になります。

## 6. フォーカスロック撮影を覚えましょう



構図上、ピントを合わせたいものから  が外れているときは、次のようにフォーカスロック撮影をします。

1.  が外れたままで撮影をすると、写真のように後ろの方にピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたい物に  を向けて、シャッターボタンを軽く押し続け、 を光らせたままにしておきます。[ピントを記憶させる操作です。]
3. シャッターボタンを軽く押し続け、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影をします。

-  [オートフォーカス]の **SINGLE** [シングル] に合わせてください。
- シャッターボタンを軽く押し、 が光っている間はフォーカスロックされ、指を離すと解除します。何回でも繰り返すことができます。

## 7. ズームレンズを操作します〔ズームレンズご使用の場合〕



ズームリングを回すと、写したいものが大きくなったり、小さくなったりしますから、お好みの位置に合わせます。

● 広角〔35mm〕



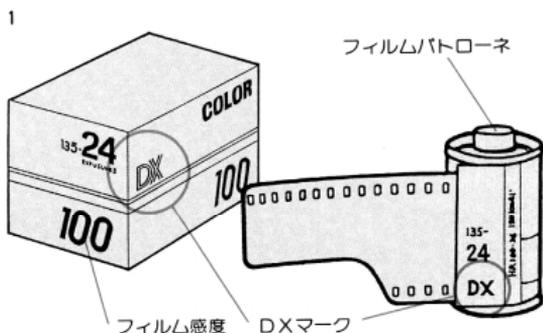
● 望遠〔70mm〕



- ズームリングの数字が小さいときは、写る範囲が広い広角側に、大きいときは遠いものを大きく写す望遠側になります。

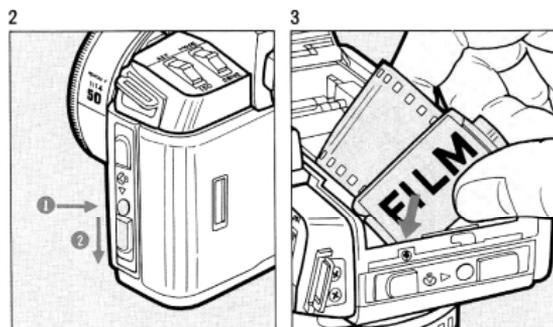
21

## 8. DX フィルムを入れます



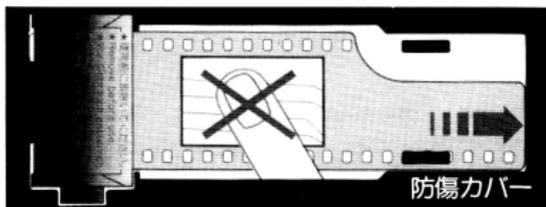
1. 図のように、**DX** マークの付いているフィルムを用意します。

〔DXフィルムはISO 25~5000まで使えます。〕



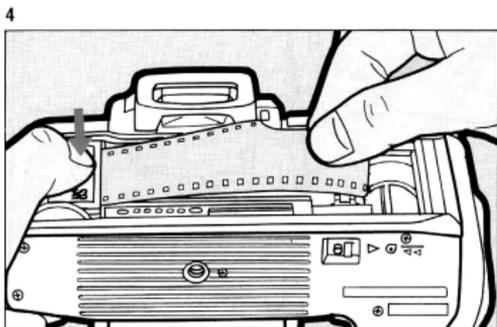
2. ①のロックボタンを押したまま、②の開放レバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。
3. 図のように、パトローネの凸部側を下にして、上側から先に入れます。

- 初めてカメラにフィルムを入れるときは、裏ぶたを開き、内側にある防傷カバー〔下図〕を取り外して捨ててください。



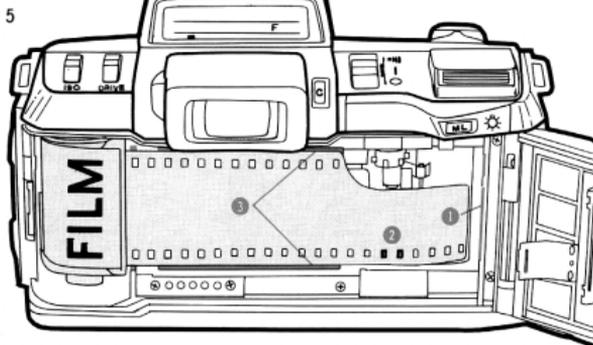
- **DX** フィルムは、感度が自動的にカメラにセットされるフィルムです。

- フィルム感度の確認や **DX** 以外のフィルムの感度セットは、25ページをご覧ください。



4. 図のように、左手でパトローネを押さえながらフィルムを引き出します。

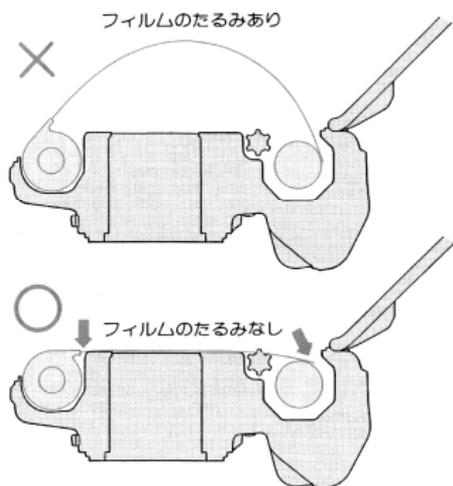
- シャッター幕は精度を出すために、非常に薄い幕でできています。手やフィルムの先端部などが絶対に触れないように注意してください。
- DXの情報ピンは、フィルム感度を読み取る接点です。キズ・汚れ・ゴミを付けないようにしてください。また、お気付きのときには、マイクロ繊維[メガネ拭きなどに利用されている布]や乾いた布などで拭いてください。



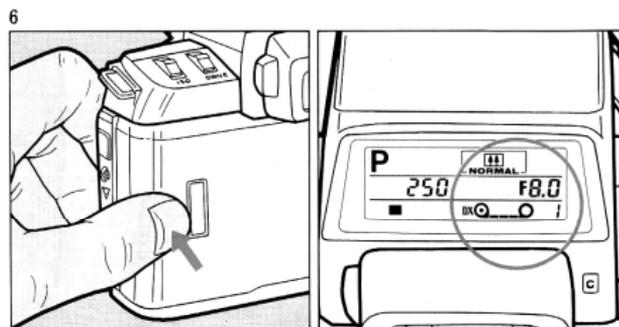
5. 図のように、フィルムの先端部を「①の先端マーク」に合わせ、フィルムにたるみがあれば、パトローネに戻してたるみをとります。

- フィルムの穴[パーフォレーション]を②の歯に合わせ、③のガイドレール[赤線]の間にフィルムが入っていることを確認してください。

23



- フィルムはたるみがないように入れてください。
- フィルムの先端が極端に折れ曲っているものは、まっすぐに直すか、曲った部分を切り取ります。

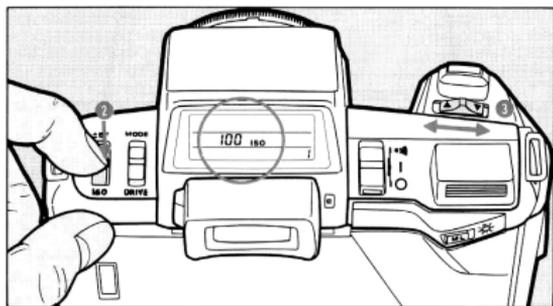


6. 裏ふたを閉めると、自動的に1枚目まで巻き上げられます。④と1が表示されることを確認します。

- スイッチが「入」になっていないと、フィルムを巻き上げられません。
  - ④が出ないときは、フィルムが正しく入っていません。裏ふたを開けて、フィルムを入れ直してください。
- DX フィルムの場合は  
④とEが点滅して、知らせます。



## 9. フィルム感度の確認と感度の合わせ方

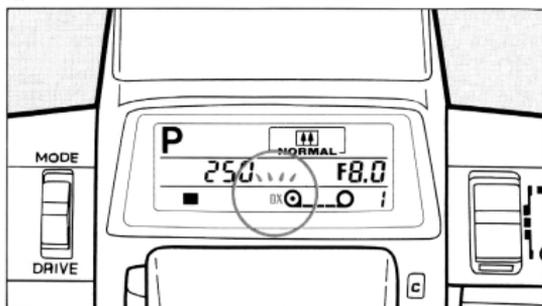


上図②のレバーを **ISO** 側に押すと、セットされているフィルム感度が表示されます。

**DX** 以外のフィルム感度を合わせるときは、②のレバーを **ISO** 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを右か左に一回づつ動かして、使用フィルムの感度〔数値〕に合わせます。

- **▲▼** レバーは、右か左に押したままにすると早送りします。
- フィルム感度は、〔ISO 6~6400〕で1/3段階ごとに表示します。
  - ▲ → 高感度側〔6400〕へ移動
  - ▼ → 低感度側〔 6 〕へ移動

※



※ **DX** フィルムを使用しているときは、表示パネルに **DX** が出ます。

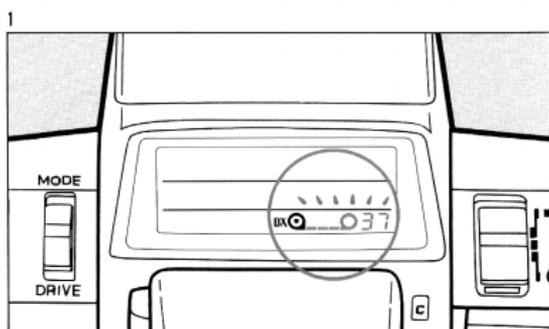
増感や減感などで、DXフィルムの感度を変えると、**DX** が点滅して変えていることを知らせます。

## 10. 撮影をします



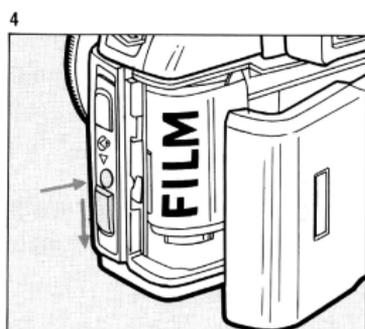
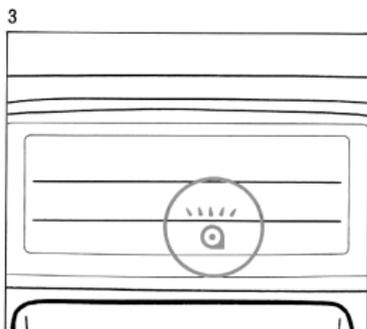
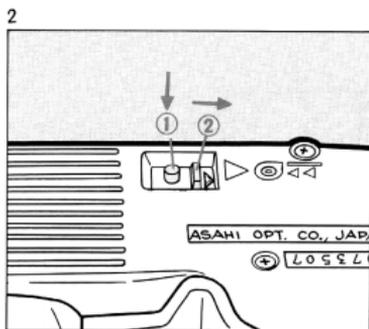
シャッターボタンを静かに押し込んで、撮影をします。撮影をすると、1コマずつ自動的に巻き上げられます。

## 11. フィルムを巻き戻し、取り出します



1. フィルムの最後まで撮ると、**---**と「撮影枚数」の表示が点滅を続けます。

- フィルムの最後まで撮ると、カメラのミラーが途中で止まることがあります。巻き戻しの操作を行うと、元の位置に戻ります。



2. 図のように、カメラ下部カバーの①のボタンを押したまま、②のレバーを▶側の [ ] マークの方に「カチッ」と止まるまで動かすとフィルムが巻き戻されます。

[撮影枚数の表示も減っていきます。]

3. 巻き戻しが終了すると [ ] が点滅し、「撮影枚数」の表示が消えます。

- スイッチが「入」になっていないと、フィルムの巻き戻しができません。
- 巻き戻しは、24枚撮りフィルムで約20秒です。

4. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

カメラを使わないときは、スイッチを必ず [ ] にして電源を切っておきます。

- フィルム巻き戻し終了の [ ] マーク点滅を確認してから裏ぶたを開けてください。
- フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。

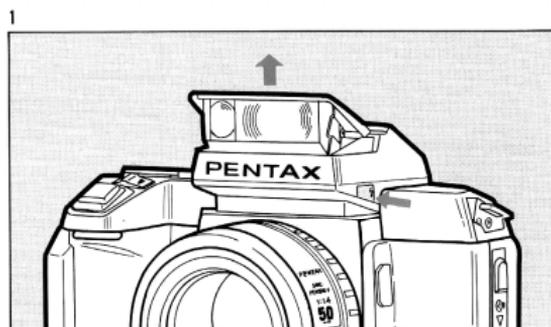
27

## 12. 内蔵ストロボで撮影します

### 1. プログラムストロボで撮影します

プログラムストロボは、周りが暗いときや逆光のときなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが自動的に組み合わせられ、簡単にストロボ撮影ができます。

使用できるレンズは、接写撮影用のマクロレンズを除く、35mmから210mmまでのレンズです。



1. プログラム自動露出に合わせます。

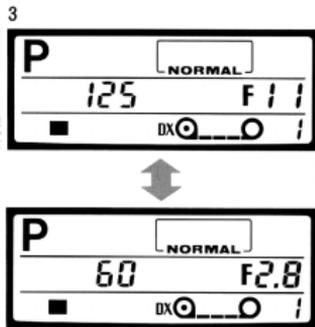
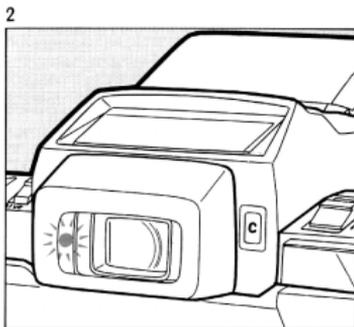
図のように、黄色の [ ] ボタンを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

充電が自動的に始まります。[充電時間は、約3秒です。]

プログラムストロボの撮影範囲の目安表

開放F値	撮影範囲
F1.4~2.8	1.4m~5m
F3.5	1.1m~4m
F4.5	0.9m~3.1m

[ISO 100のとき]



2. 内蔵ストロボの充電完了は、ファインダー窓の左横[アイカップF内]の赤ランプで確認します。

3. シャッターボタンを軽く押すと表示パネルにストロボ同調速度と絞りが表示されます。  
[ファインダー内の  は表示しません]

4. さらにシャッターボタンを押して、ストロボ撮影をします。

### ●プログラムストロボ

レンズの絞りがAのときは、被写体の明るさに応じてストロボ同調速度[1/60・1/125秒]と絞り[F2.8~F11・ISO 100]が周りの明るさに合わせて変化するので、日中でもストロボ撮影が簡単にできます。

- 非常に明るい所での日中ストロボ撮影は、露出オーバーになることがあります。
- 撮影が終わったときや撮影をしないときは電池を無駄にしないよう、必ずストロボを収納してください。

29

## [内蔵ストロボで撮影します]

### ご使用上の注意

- ①ストロボ充電中は、必ずシャッターボタンから指を離します。
- ②内蔵ストロボ発光禁止警告について  
下記のFレンズのときは、充電が完了してから、シャッターボタンを軽く押すと、安全機構が働いて、ストロボ充電完了ランプが点滅し、ストロボが使えないことを警告します。  
シャッターを切ってもストロボの発光が中止され、自動的に一般撮影に切り替わります。

- 35mm未満のレンズ
- 210mmを超えるレンズ
- マクロレンズ

これは、画面の四隅が暗くなるようなケラレが出たり、レンズの本体がストロボの光路を遮って、画面下部に半円形のケラレが出たりするためです。この機構は、Fレンズ[レンズにsmc PENTAX-Fという記号が表示されています。]に組み込まれていますが、他のレンズでは警告が出ませんから、お使いになる場合には、充分にご注意ください。

- ③ストロボの光路を遮ることがありますので、レンズフードは使わないでください。また、35mmの広角レンズでは、1m以上の撮影距離でご使用ください。[ISO 100でF3.5のとき1.1~4m]
- ④目が赤く写るとき  
一般に「赤目現象」と言われ、周りが暗いと瞳孔が開くため、網膜にストロボ光が反射して発生する現象です。発生するかどうかは個人差もあるようですが、完全に防ぐことはできませんので、人物を撮影する場合には、周りを明るくして、瞳孔を閉じる方向に持って行ったり、ズームレンズの場合は、広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用してください。
- ⑤近いものと遠いものを一緒に撮影するときに、遠い方に絞りを合わせますと、近いものに余計に光が当たることになりやすいため白っぽく〔露出オーバー〕なることがあります。

## 2. 手動絞りで使うとき

この内容は「いろいろな機能の操作編」をお読みいただいた後にご覧ください。また、30ページの「ご使用上の注意」も改めてお読みください。

ピントを深く合わせたいときなどに、ご自分で絞りを調節して使うことができます。

この場合は、絞り優先自動露出[38ページ]かマニュアル露出[40ページ]にして、絞りを手動にして使います。

使用する絞りから、ストロボでの撮影範囲の目安を計算します。

遠距離側の目安  $G_N \div$  使用絞り  
近距離側の目安 遠距離側目安  $\div 3.5$   
[0.6m以下の近距離では使えません。]

※  $G_N$  = ガイドナンバー

また、距離が先にわかっているときは、撮影距離から使用する絞りを計算します。

$G_N \div$  撮影距離 = 使用できる絞り

計算で出た数字が例えば「3」というように「4」「2.8」のいずれでもないときは、一般的に数字の小さい方の絞り「2.8」に合わせます。

なお、 $G_N$ は使用するフィルム感度[ISO]により下の表のようになります。

ISO 25 → $G_N$ 7	ISO 200 → $G_N$ 20
ISO 50 → $G_N$ 10	ISO 400 → $G_N$ 28
ISO 100 → $G_N$ 14	

ここで、ISO 100のフィルムを、絞りF3.5で使うときの操作をしてみましょう。

1. レンズの絞りをF3.5に合わせます。
2. ストロボ撮影の撮影範囲を計算します。

$$G_N 14 \div F 3.5 = 4 \text{ m}$$

$$4 \text{ m} \div 3.5 = 1.14 \text{ m} \rightarrow 1.1 \text{ m}$$

3. 4 mから1.1mの範囲でストロボ撮影をします。

31

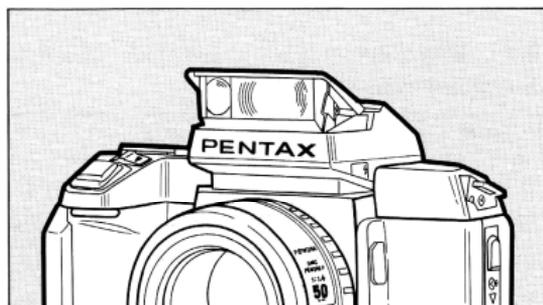
## 13. AFスポットビームを使います

暗い所では、オートフォーカスができなくなりますが、SFX<sub>N</sub>では内蔵ストロボを飛び出させて、シャッターボタンを軽く押すと、赤色光が自動発光して約1～4mの範囲でオートフォーカスを働かせることができます。

この赤色光を「AFスポットビーム」と言います。

- AFスポットビームは、FレンズまたはAFアダプター1.7×を使用して、**AF** [オートフォーカス] の **SINGLE** [シングル]のときのみ働きます。
- ストロボを使わないときは、ピントが合った所で、フォーカスロック[20ページ]をしたまま、内蔵ストロボを収納して撮影することもできます。
- 明るい所ではAFスポットビームは働きません。
- **▶◀** が点滅しているときは、ピント合わせができないときです。[44～46ページをご覧ください。]
- AF400FTZやAF240FTのAFスポットビームを使うときは、内蔵のAFスポットビームは働きません。

基本撮影編はこれでおしまいです。⇒



内蔵ストロボのまとめ

ガイドナンバー[GN]	14[ISO 100のとき]
充電時間	約3秒 [6Vリチウム電池]
使用フィルム感度	ISO 25～400
プログラムストロボでの撮影範囲	約1.4m～5m [F2.8のとき]
使用レンズ	35mmから210mmまで 35mmは1m以上でお使いください。 マクロレンズは除きます。

32



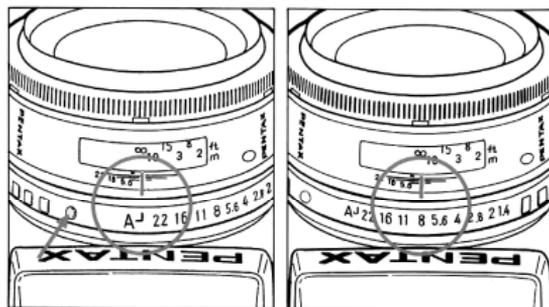
## いろいろな機能の操作編

33

### SMC PENTAX-F[Fレンズ]とSFX<sub>N</sub>での「露出方式」の組み合わせ

FレンズとSFX<sub>N</sub>を組み合わせてご使用になりますと、プログラム自動露出のほかにも、レンズの絞りの位置によって、各種の「露出方式」が得られます。

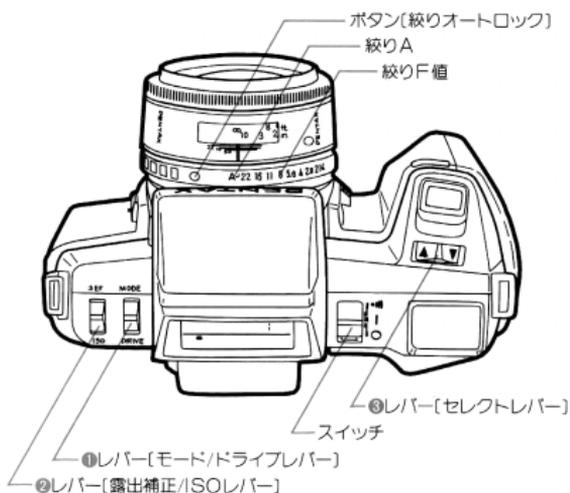
絞りをAまたは、手動絞りにするときは、矢印のレンズのボタンを押したまま、絞りリングを回します。



I A 絞りA	<ul style="list-style-type: none"> <li>— プログラム自動露出 [高速・ノーマル・深度]</li> <li>— シャッター優先自動露出</li> </ul>
I 11 8 5.6 手動絞り	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 絞り優先自動露出</li> <li>— マニュアル露出</li> <li>— bulb [バルブ]</li> <li>— 125 [1/125秒]</li> </ul>

#### 手動絞りで使うときの注意

開放F値が変わるズームレンズは赤線指標の横の色点が望遠側の絞り指標になります。[Fレンズの説明書もご覧ください。]



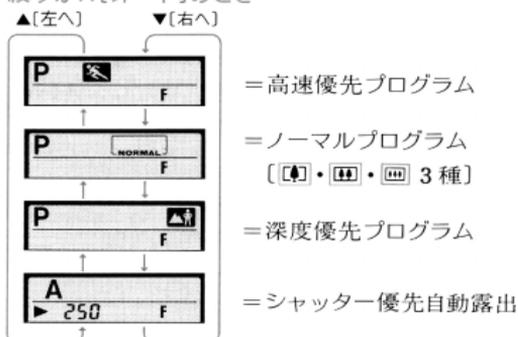
### 露出方式の選び方

1. レンズの絞りを **A** か **A** 以外に合わせます。
2. スイッチを **|** か **||** にして、電源を「入」にします。
3. 左図 ①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを右か左に一回づつ動かして、露出方式を選びます。  
右図のように、「露出方式」の表示が変化します。  
**▲▼** レバーを押したままにすると、表示が早送ります。

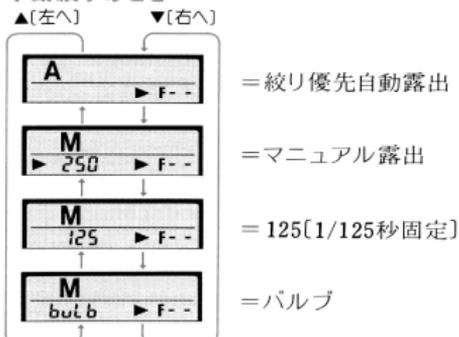
### シャッター速度の選び方

- シャッター優先自動露出やマニュアル露出では、**▲▼** レバーを動かして希望のシャッター速度にします。
- ▲** レバーでは4000[1/4000秒]、**▼** レバーでは1[1秒]まで表示します。
- ▲▼** レバーを押したままにすると、表示が早送ります。

### 絞りがA[オート]のとき



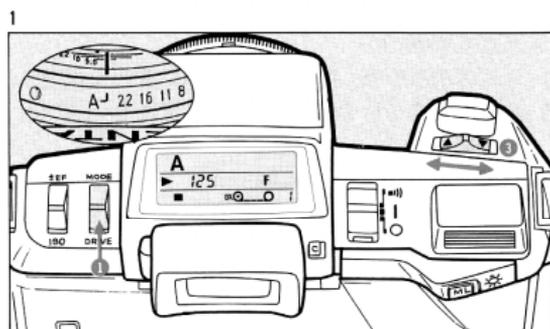
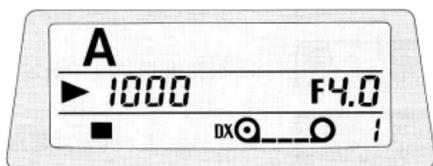
### 手動絞りのとき



## シャッター優先自動露出の使い方

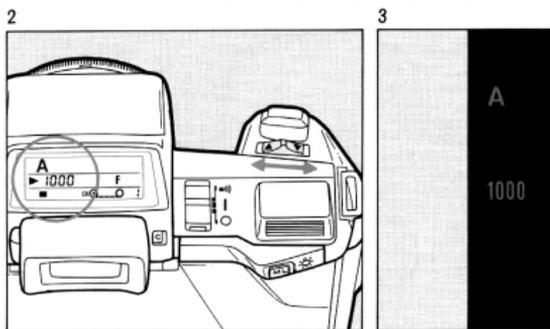
### シャッター優先自動露出

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を表現するのに適しています。



1. 絞りを **A** に合わせます。

図のように、**A** と「▶シャッター速度」が表示されるように、①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを動かしてシャッター優先自動露出にします。

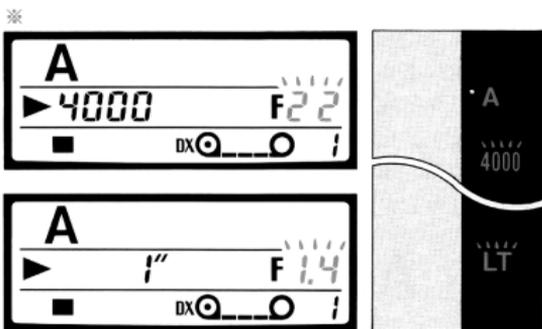


## 2. シャッター速度を選びます。

早い速度にするときは、**▲▼**レバーを「左」へ、遅い速度にするときは、「右」に動かします。

- 一回づつ動かすごとに表示が変わり、押したままにすると早送りします。
- 4000[1/4000秒]～1[1秒]まで表示します。

3. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **A** と、選んだ「シャッター速度」が光ります。[表示パネルには、選んだ「シャッター速度」に応じた「絞り」が表示します。]



## ※露出警告

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

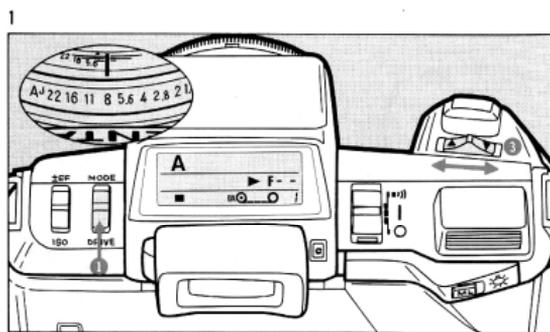
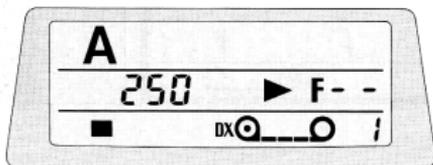
遅い速度[L T側]、または、早い速度[4000側]に変えて、点滅しなくなれば撮影ができます。

30～LT[1/30～1/2秒以下]のシャッター速度〔橙色〕になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。[露出警告表示、64ページもご覧ください。]

## 絞り優先自動露出の使い方

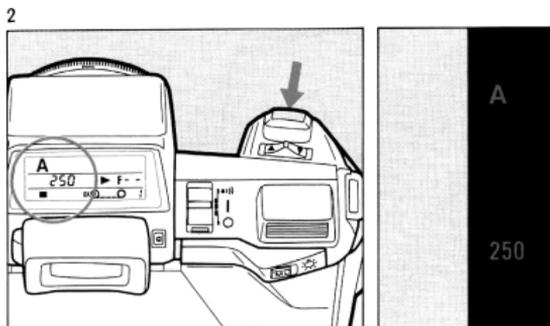
### 絞り優先自動露出

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ピントを深く合わせたい風景や集合写真、接写、また、人物中心にピントを合わせ、背景をぼかしたいときなどに適しています。

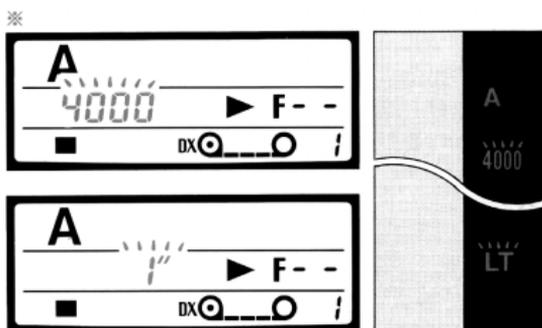


## 1. 手動絞りにします。

図のように、**A** と「**F--**」が表示されるように、①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の **▲▼**レバーを動かして絞り優先自動露出にします。



2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **A** と、選んだ絞りに応じた「シャッター速度」が光ります。[表示パネルには、「シャッター速度」が表示されます。]



※露出警告

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

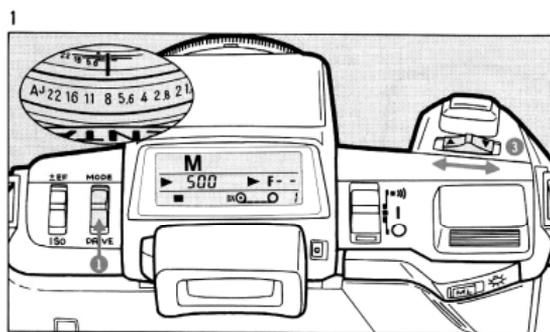
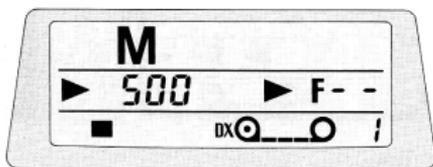
絞りリングを「F22など」大きい数字の方へ回すか、「F1.4など」小さい数字の方へ回して点滅しなくなれば撮影できます。

30~LT[1/30~1/2秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。[露出警告表示、64ページもご覧ください。]

## マニュアル露出の使い方

### マニュアル露出

露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で、撮影することもできます。

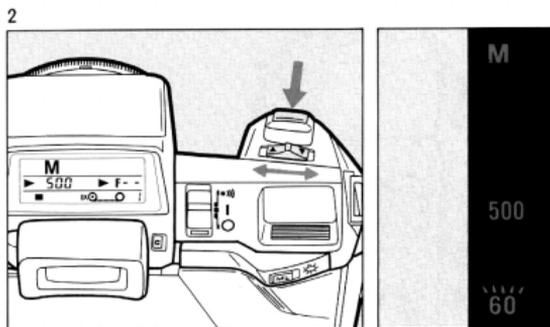


1. 手動絞りにします。

**M** と「▶シャッター速度」「▶F--」が表示されるように、①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、②の **▲▼** レバーを動かしてマニュアル露出にします。

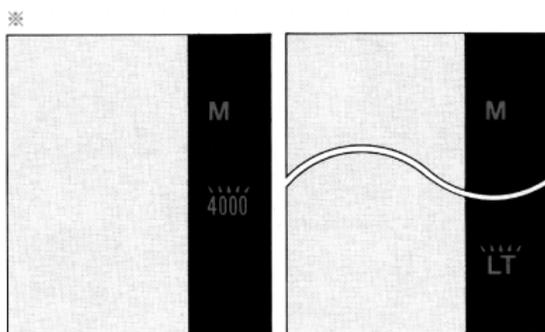


- マニュアル露出のときは、 [オートブラケットティング]は使えません。



2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **M** と「シャッター速度」が光ります。図のように、シャッター速度が点滅したときは、露出が合っていないときです。▲▼レバーでシャッター速度を変えたり、絞りを調節して、点滅が消えて一つの表示が光るようにすれば適正露出になります。

- 絞りリングを回しても適正露出にならないときは、シャッター速度を合わせ直します。
- シャッター速度を変えても、適正露出にならないときは、絞りを合わせ直します。



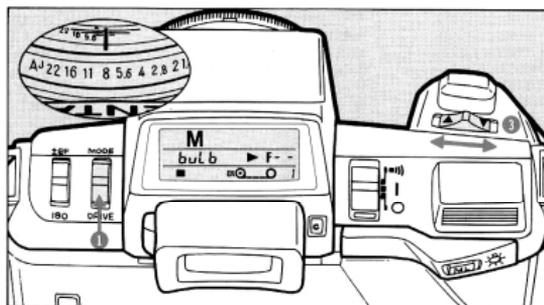
※露出警告

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

絞りリングを「F22など」大きい数字の方へ回すか、「F1.4など」小さい数字の方へ回して点滅しなくなれば撮影できます。

30～LT[1/30～1/2秒以下]のシャッター速度〔橙色〕になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。〔露出警告表示、64ページもご覧ください。〕

**bulb** [バルブ] ・ **125** [1/125秒]

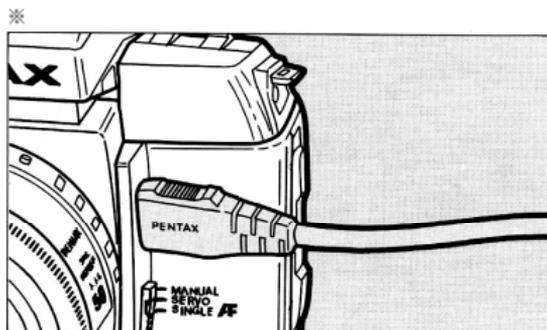


bulb [バルブ]

花火・夜景などの長時間撮影にご利用ください。シャッターボタンを押している間だけシャッターが開いています。

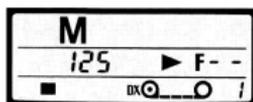
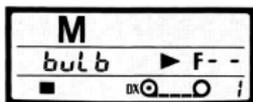
125 [1/125秒]

ホットシューに取り付ける一般のストロボを使うときにご利用ください。シャッター速度は1/125秒に固定されます。



絞りは、手動絞りにします。

①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の ▲▼レバーを動かして **bulb** [バルブ] または、**125** [1/125秒] の表示を出します。シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に、バルブのときは **M**、125のときは **M** と **125** が光ります。



バルブ撮影

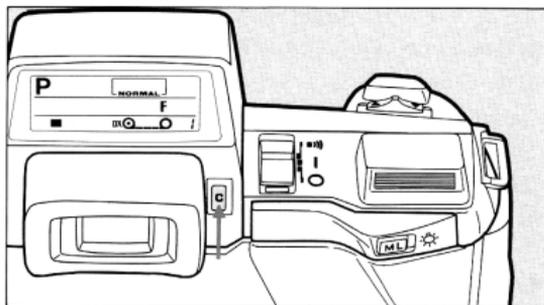
※バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、左図のように別売りの「ケーブルスイッチF」をリリースソケットFに差し込んでご使用ください。

- 新品の6Vリチウム電池や単3形アルカリ乾電池〔常温〕で、約10時間の長時間露出〔タイム〕ができます。
- bulb〔バルブ〕のときは、☺〔セルフタイマー〕、☹〔トリプルセルフタイマー〕、☑〔オートブラケットティング〕は使えません。

125〔1/125秒〕

一般のストロボを使うときは、使用フィルムの感度や撮影距離または、ストロボの設定絞りに応じてレンズの絞りを合わせなくてはなりません。〔使用ストロボの説明書をご覧ください。〕

- 125〔1/125秒〕のときは、☑〔オートブラケットティング〕は使えません。



クリアーボタンを押すと、露出方式 **MODE** や撮影方式 **DRIVE**、露出補正 **±EF** などを、即座に下表のような標準使用に切り替えられます。

露出方式	レンズ絞りA位置→ノーマルプログラム
<b>MODE</b>	レンズ絞りA以外→絞り優先自動露出
撮影方式	→1コマ撮影
<b>DRIVE</b>	
露出補正	→±0.0
<b>±EF</b>	

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構は高精度のものですが、万能ではないため被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによっては、ピントが合わないことがあります。〔マニュアルフォーカスでも同じです。〕

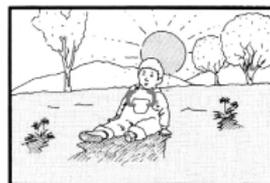
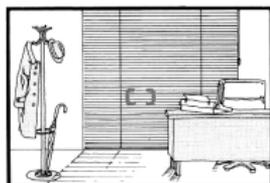
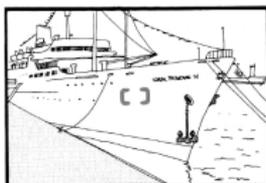
このような場合は、フォーカスロック撮影や暗い所では内蔵ストロボを利用してお使いください。

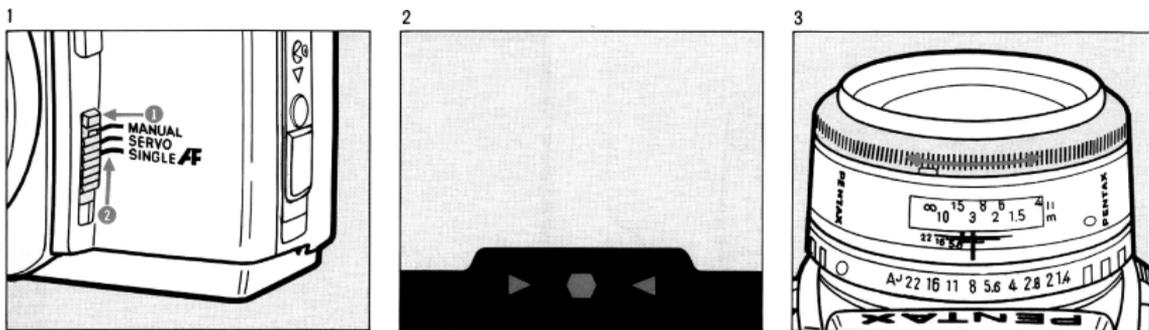
- 白壁などコントラスト〔明暗差〕の非常に低い被写体。
- 光を反射しにくい被写体。〔真黒いものなど〕
- 非常に速い速度の被写体。
- 横線のみ被写体。細かい模様の被写体。
- 遠・近の物が〔C〕の中で混在する被写体。
- 反射の強い光、強い逆光、周辺が特に明るい被写体。

アクセサリーの注意

下記のアクセサリーでは、AF〔オートフォーカス〕や▶◀〔フォーカス表示〕によるピント合わせができませんから、マット部分〔46ページ〕でピントを合わせてください。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使ったとき。
- SFX<sub>N</sub>はミラーにハーフミラーを使っているため、一般用偏光フィルターは使えませんので、円偏光フィルターをお使いください。
- 「接写リング」や「オートベロース」を使った拡大接写。





従来のペンタックスK<sub>A</sub>およびKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ[F5.6~F1.2]を使うときは、ファインダー内の▶◻◀に従って手動によるピント合わせができます。なお、K<sub>AF</sub>マウントレンズ[Fレンズ]でも、**MANUAL** [マニュアル]にすると同じ操作になります。

1. 図のように、①のボタンを押したまま、②のレバーを押し上げて **MANUAL** [マニュアル]に合わせます。
2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内 ▶◻◀ のいずれかが表示されます。
3. フォーカス表示の ▶ [右へ] または、◀ [左へ] の方向に合わせて、レンズの距離リングを回します。◻ が緑色に光れば撮影できます。

● スイッチが ◻◻ のときは、電子音で知らせます。

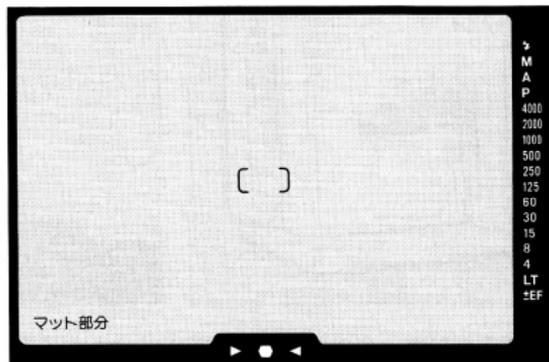
45

### マット部分でのピント合わせが必要なとき



下記のようなときは、▶◻◀ [フォーカス表示] が利用できませんから、ファインダーの ◻◻ マーク以外のマット部分を使って手動でピント合わせをします。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」や ◻◻ が出ないとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズ。
- ペローズ100mm F4・シフト28mm F3.5 [シフト時] レフレックスタイプのレンズ。
- 旧タイプのねじ込み式タクマーレンズに、別売りの「マウントアダプターK」を取り付けて使うとき。



「マット部分でのピント合わせ」は、◻◻ マークに関係なくスクリーンのマット部分でピント合わせをすることです。

## ±EF 露出補正の使い方

±0.0 [補正なし]



+2.0 [+側に補正]



±0.0 [補正なし]

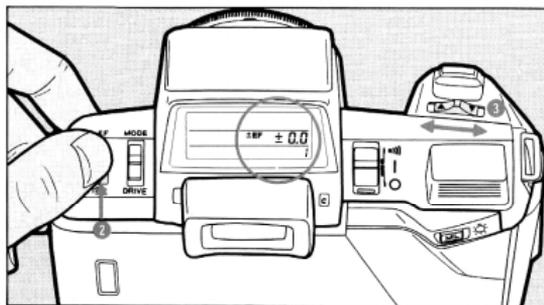


-2.0 [-側に補正]



47

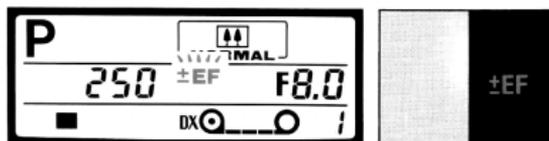
## ±EF [露出補正の使い方]



露出補正は、自動露出で撮影するときに、写真の画面全体を意図的に露出オーバー〔明るい写真〕や露出アンダー〔暗い写真〕にしたいときに使用します。下表「撮影例」のときなどに、ご利用ください。

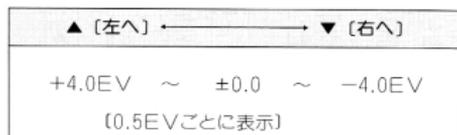
②のレバーを **±EF** 側に押ししたまま、③の **▲▼** レバーを動かして、希望の補正值を出します。

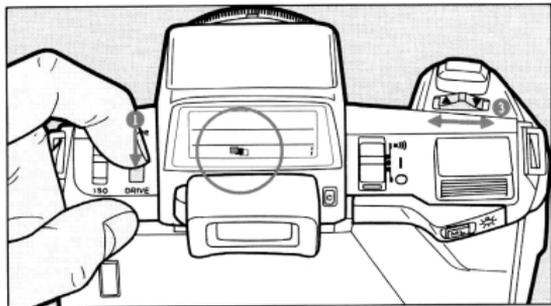
撮影編	露出補正量
逆光撮影 空の多く入った風景撮影 雪上の人物撮影 空が背景に入った人物撮影	約+1.0~+4.0
背景が暗い撮影 舞台撮影・夜景	約-1.0~-4.0



調整範囲は、〔+4~-4〕の0.5EVごとに行えます。露出補正中は、表示パネルの **±EF** が点滅します。また、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内の **±EF** も点灯します。使用後は、忘れないうちに **±0.0** に戻してください。

- **C** ボタンを押すと、**±0.0**に戻ります。
- ペンタックス・専用オートストロボ撮影のときも露出補正が働きます。
- マニュアル露出は、シャッター速度や絞りを調節した方が便利です。





オートブラケットは、自動露出のときに、露出補正が必要な被写体[写したい物]で補正を決めにくいときなどに、3コマ「連続撮影」の段階露出をします。

- ①のレバーを **DRIVE** [ドライブ] 側に押したまま、
  - ③の **▲▼** レバーを動かして **[ ]** 表示を出します。  
**±EF** が点滅して、露出補正中を知らせます。
  - ②のレバーを **±EF** 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを動かして、希望の補正值にします。
- 最初は、 $\pm 0.3$ EVに設定されていますが、 $\pm 0.5$ ~ $\pm 4.0$ EVまでは、 $0.5$ EVごとに設定できます。

## 露出補正

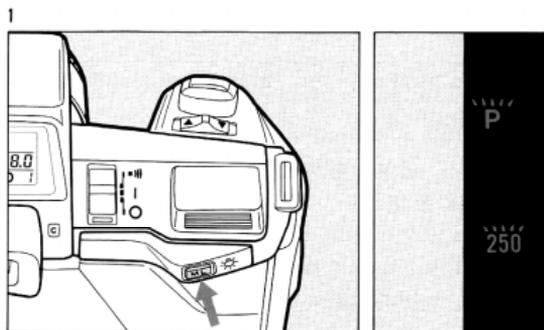
1コマ目	2コマ目	3コマ目
$\pm 0$ [露出計による]	アンダー露出	オーバー露出

シャッターボタンを押している間は、3コマ「連続撮影」ができます。

1回シャッターを切った後[1コマ目撮影後]シャッターボタンを軽く押した状態に戻すと **[ ]** が点滅して、次ぎの撮影を待機しますので、シャッターチャンスを待つことができます。なお、シャッターボタンから指を離すと **[ ]** が2秒間点滅した後、「オートブラケット」は解除されます。

- 3コマ連続撮影は、毎コマ「露出制御」を行いますので、周囲の明るさの変化に対応した3段階の撮影ができます。
- ピント合わせは、1コマ目の撮影位置で「フォーカスロック」されます。また、作動中はファインダー内の露出表示は出ません。
- ストロボ撮影での使用はできません。
- **M** [マニュアル]露出、**125** [1/125秒]、**bulb** [バルブ]のときは使用できません。
- **[ ]** [オートブラケット]と **ML** [メモリーロック]を組み合わせで使用できます。  
[詳しくは、50ページをご覧ください。]

49

**ML** メモリーロックの使い方

メモリーロックは、自動露出のときに、撮影前の露出情報をカメラへ一時的に記憶させるもので、露出補正の一方法です。

逆光や背景に明るい空などが多く入るような状態での人物撮影、あるいは逆に背景が暗いときの人物撮影などにご利用ください。

## 照明ボタン

**ML** [メモリーロック]ボタンは、照明ボタンと兼用になっています。ボタンを一回押すと、表示パネルが約8秒照明されます。

暗い所などでのご操作にご利用ください。

## 2 ●メモリーロック使用



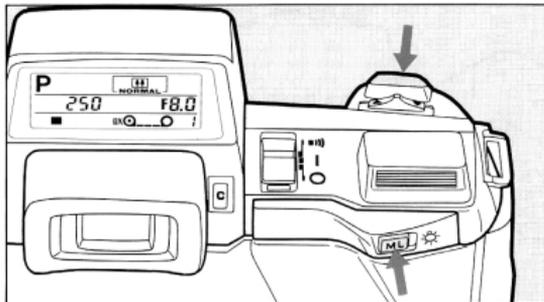
- 1.人物の顔などをファインダーいっぱいに入れて、**ML** ボタンを押します。押している間は顔の明るさに合った露出が記憶されます。
- 2.写真のように、メモリーロックを使って希望の構図に戻して撮影すれば、人物が適正露出になります。

- メモリーロック中は、ファインダー内の露出表示が速い点滅で知らせます。
- **ML** ボタンから指を離すと記憶は、解除されます。

●メモリーロックなし



※



※メモリーロック中にシャッターボタンを軽く押し続けると、**ML** ボタンから指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。シャッターを切るとメモリーロックは、解除されます。

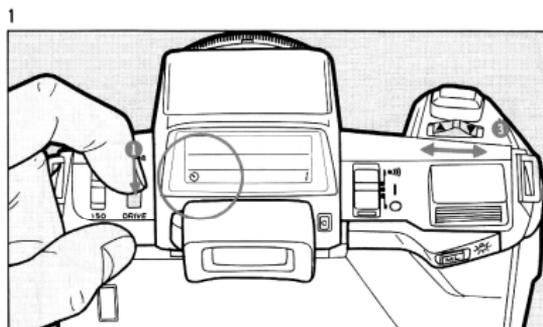
☑ [オートブラケットティング] と **ML** [メモリーロック] を組み合わせて使うときは、オートブラケットティングに合わせてから、メモリーロックで撮影します。

メモリーロックで記憶した、写したい被写体の明るさを基準に3コマ「連続撮影」ができます。

- メモリーロックを使うときは、被写体に近づいたり、ズームレンズのときは望遠側にしてご利用ください。
- マニュアル露出でも、**ML** ボタンを押すと、ファインダー内のシャッター速度の表示は固定され、表示が点滅します。

51

🕒 セルフタイマー撮影

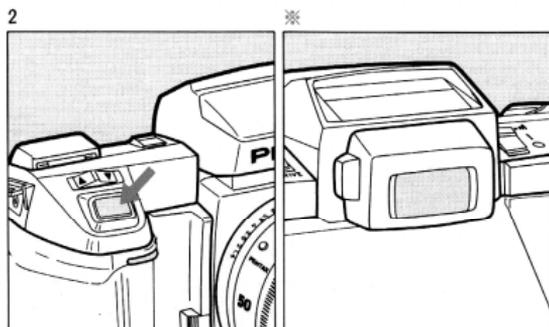


セルフタイマーは撮影者も入って記念撮影などをするときに使う、タイマー撮影です。

1. ①のレバーを **DRIVE** [ドライブ] 側に押したまま、③の ▲▼ レバーを動かして、🕒 の表示を出します。

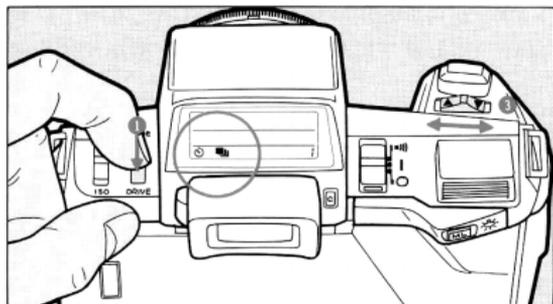
2. 写したいものにピントを合わせたまま、さらにシャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターが切れます。

- スイッチを **☑** に合わせておくと、セルフタイマーの作動中はセルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピピピ」になります。



※ファインダー窓から目を離して自動露出で使うときはファインダー窓から入る光りのために露出不足になることがあります。セルフタイマーを使うときは、ホットシューカバーを取り外して、アイカップFの内側にはめ込んでご使用ください。

- セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、スイッチを **○** にして、電源を切るとセルフタイマーは解除されます。なお、スイッチを **I** か **☑** に入れ直すと、■ [1コマ撮影] になります。
- C** ボタンを押しても、■ [1コマ撮影] になります。



トリプルセルフタイマー撮影は、シャッターボタンを押した後、12秒後に3コマ「連続撮影」がでます。記念撮影などで、ポーズを変えた写真が3枚写せます。

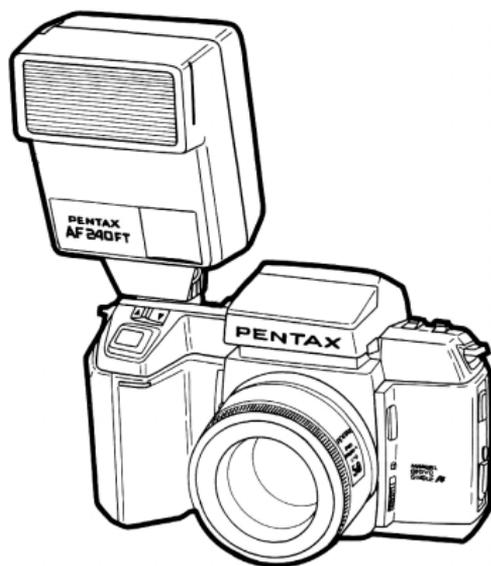
- ①のレバーを **DRIVE** [ドライブ] 側に押したまま、
  - ③の **▲▼** レバーを動かして **☺** の表示を出します。
- シャッターボタンを押すと、約12秒後に1コマ目のシャッターが切れた後、2コマ目・3コマ目は2秒間隔でシャッターが切れます。

連続撮影は次の順でシャッターが切れます。

1コマ目	2コマ目	3コマ目
12秒後	2秒後	2秒後

- ピント合わせは、1コマ目の撮影位置で「フォーカスロック」されます。
- 3コマ「連続撮影」後は、**■** [1コマ撮影]になります。
- ストロボ撮影のときは、ストロボの充電完了を確認してから、セルフタイマーを起動させてください。[2コマ目と3コマ目は、ストロボが充電完了してから、2秒後に発光します。]
- ストロボの充電時間が約7秒を超えるときは、セルフタイマーは解除されます。
- 内蔵ストロボとペンタックス・専用オートストロボを組み合わせた増灯撮影はできません。
- 内蔵ストロボと別売りの「ケーブルスイッチF」を使うときは、スイッチFのリリースロックは使わないでください。1コマ目を撮影した後、**■** [1コマ撮影]に解除されます。
- ☺** [セルフタイマー]や**☺** [トリプルセルフタイマー]のときは、**bulb** [バルブ]は使用できません。

## ペンタックス・専用オートストロボの使い方



他社製ストロボを組み合わると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をおすすめします。

SFX<sub>N</sub>が自動露出やマニュアル露出になっていればいつでも簡単に専用オートストロボが使えます

### 専用ストロボ撮影の手順

1. カメラの「ホットシューカバーF」を外して、ストロボを取り付けます。
2. ストロボをTTLオートまたは、外光オートに合わせます。
3. ストロボの電源スイッチを入れます。

- ストロボの充電完了確認は、ストロボの充電完了ランプでできますが、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内の **⚡** が光ります。表示パネルには、ストロボ同調のシャッター速度が表示されます。
- シャッターボタンから指を離すと、約5秒後に **⚡** と「シャッター速度」の表示も消えます。
- SFX<sub>N</sub>には、右表のように豊富な機能を持った、専用ストロボ「AF400FTZ」や「AF240FT」をご利用ください。

SFX <sub>N</sub> の機能	SFX <sub>N</sub> 内蔵ストロボ	AF400FTZ AF240FT	AF400T AF280T	AF200T AF080C	AF200SA AF140	AF200S AF160
ストロボの充電完了時、シャッターボタンを軽く押すとファインダー内の [S] が光ってシャッター速度が自動的にストロボ同調速度に切り替わります。	○※ (60・125)	○ (60・125)		○ (125)		○ (125)
絞りがAのときは、絞りは自動的に合わせられます。	○	○		○		☆
オートストロボが正常に働いたときは、ファインダー内の [S] が発光後に点滅表示します。		○		○		
ストロボの発光量は、撮影中のフィルム面光量を測定しながら自動的に調節します。[TTLオートストロボ]	○	○		○		
マニュアル露出のときは、1/125秒以下の低速シンクロ撮影が可能です。	○	○		○		○
暗い所ではAFスポットビームが発光します。	○	○				
先幕・後幕シンクロ撮影の切り替えができます。		○				

- 旧タイプの「AF140」・「AF160」・「AF200S」は、ストロボで決められた絞りに合わせて使用してください。
- ストロボが不要な程度に明るい所では、オートストロボに切り替わっていてもストロボが発光しないこともあります。
- ※印は充電完了時に、ファインダー左横の赤ランプが光ります。
- ☆印「AF200SA」は自動的に合わせられます。

#### TTLオートストロボ

SFX<sub>N</sub>の内蔵ストロボやペンタックス・専用TTLオートストロボを使ったときは、レンズを通してフィルム面に当たる光の反射を直接測光し、適正露出となるように、測光回路がストロボの発光量を自動的に調節します。被写体からの反射光だけを測るため、正確な露出が得られます。

## TTLオート・外光オートストロボの使い方

### TTLオートストロボの使い方

#### プログラム自動露出・シャッター優先自動露出

- SFX<sub>N</sub>専用の「AF400FTZ」や「AF240FT」は、内蔵ストロボと同様、被写体の明るさに応じてシャッター速度や絞りが自動的に切り替わるので、日中シンクロ撮影も簡単にできます。詳しくは、ストロボの説明書をご覧ください。
- 従来の「AF200T」・「AF280T」・「AF400T」・「AF080C」では、充電が完了すると、ストロボ同調速度の1/125秒と絞りF4[ISO 100のとき]に切り替わりますので、日中シンクロ撮影には、おすすめできません。  
[AF080CはF8・ISO 100のとき]

- ISO 100では自動的にF4になります。このとき開放F値が変化するズームレンズ[F3.5～F4.5]をF4.5側で使うと露出不足になる場合がありますのでご注意ください。

#### 絞り優先自動露出・マニュアル露出

- レンズの絞りを、希望の絞りに合わせます。
- 充電が完了すると、1/125秒に切り替わります。

### 外光オートストロボの使い方

#### プログラム自動露出・シャッター優先自動露出

- 「AF200SA」・「AF200T」・「AF280T」・「AF400T」などは、スイッチをオート[赤・緑・黄]位置に合わせます。
- 充電が完了するとシャッター速度は、1/125秒になり、絞りは下表のように切り替わります。

ISO 100のとき

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄	—	—	F11

[AF200SAは、オート専用機でISO 100のときF4になります]

- 表のようにISO 100で「AF280T」の赤を使うと自動的にF4になります。このとき開放F値が変化するズームレンズ[F3.5～F4.5]をF4.5側で使うと露出不足になりますのでご注意ください。

#### 絞り優先自動露出・マニュアル露出

- ストロボのオート[赤・緑・黄]に合わせます。
- レンズの絞りは、ストロボの計算盤で指定された絞りに合わせます。
- 充電が完了すると、1/125秒に切り替わります。

TTL・外光オートストロボの共通な使い方  
SFX<sub>N</sub>のマニュアル露出では、シャッター速度を1/60秒～1秒の範囲内に合わせると、低速シンクロ撮影ができます。

シャッター速度は、▲▼レバーで希望の速度を選びます。

#### 低速シンクロ撮影

夜景などを背景にして、近くのものや人物にストロボをあてる時、通常にストロボ撮影をすると背景が暗くなってしまいますが、シャッター速度を低速にしてストロボを発光させると、背景の様子もバランス良く写し込むことができます。

- シャッター速度を1/4000～1/250秒にしているときは、充電が完了すると、1/125秒に切り替わります。

#### ⚡ [オートチェック]表示

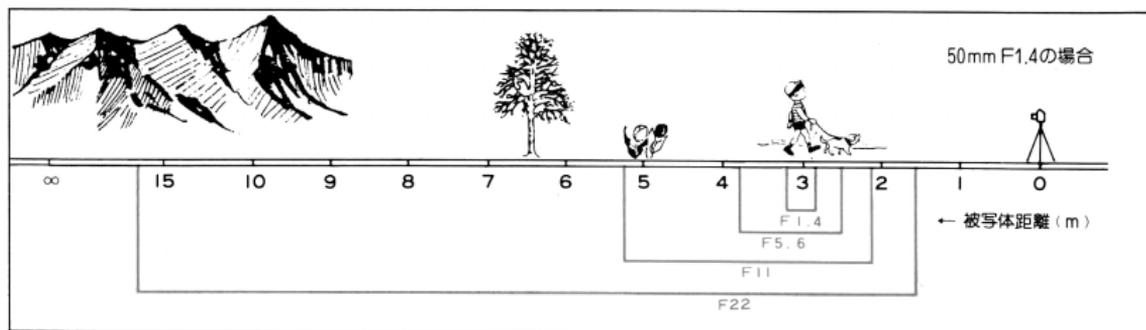
TTL・外光オートストロボが適正な発光をするとストロボ発光後に、ファインダー内の⚡が点滅して、ストロボ撮影の完了を知らせます。

- 「AF200S<sub>A</sub>」には、この機能はありません。

#### 専用ストロボ使用上の注意

- ストロボのMS[マニュアルシンクロ]、M[マニュアル]では、ストロボで決められた絞りで使用してください。  
絞りをAにしたときは、適正露出が得られません。また、ストロボの種類によっては、MS、Mの機能が異なる場合がありますので、ご使用のストロボの使用説明書をご覧ください。
- TTLオートや外光オートストロボで、増灯撮影をするときは、内蔵ストロボとペンタックス専用ストロボを組み合わせて増灯撮影ができます。ストロボ機能はホットシューに取り付けたストロボが優先します。撮影のときは、各ストロボの充電完了を確認して行なってください。
- bulb [バルブ]使用でも、TTLオートや外光オートストロボの撮影は可能です。
- AF080Cリングライトをホットシューの上に取り付けるときは、別売りのホットシューアダプターFを用いるとシャッターボタンの操作が楽になります。

## 被写界深度



被写体の、ある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

#### ピントの合う範囲

絞り込むほど、広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。絞りを換えることによってピントの合う範囲[奥行]が変わります。



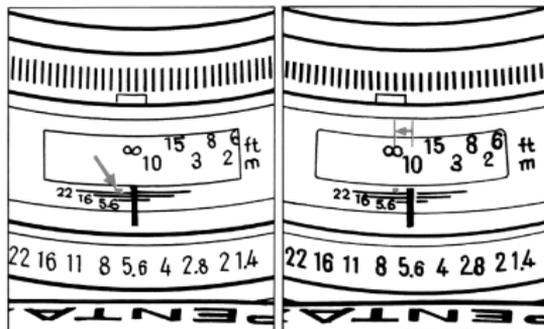
ズームレンズの被写界深度目盛は機構的に入っていないものもあります。

## 赤外線指標の使い方

### ●絞りF1.4



### ●絞りF22



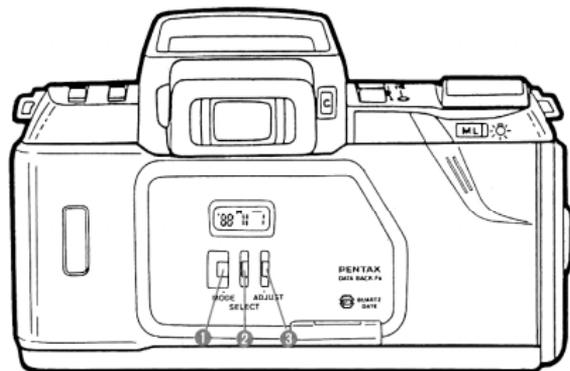
赤外線フィルムとR2やO2のフィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影〔可視光〕とピント位置が異なってくるため、ピント補正が必要です。

ファインダーでピントを合わせたときの距離目盛りを読み取り、レンズの距離リングを回し、赤外線指標の位置までずらして撮影します。

- レンズの距離リングを回すときは、必ず、**MANUAL**〔マニュアル〕フォーカスにします。

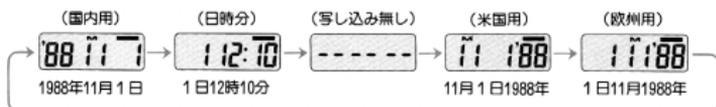
59

## クォーツデートの使い方



※この写真の数字はハメコミ合成です。

- MODE** モード：切り替えボタン
- SELECT** セレクト：選択ボタン
- ADJUST** アジャスト：調整ボタン



データの写る部分に白や黄色の物が来ると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。

このクォーツデートは、工場出荷時に、おおむね正しい時間に合わせていますが、調整や電池を交換するときは62ページをご覧ください。

①の **MODE** ボタンを押して、日付けか時間を選びます。

- **M** は「月」の位置を表しています。
- **-** はシャッターを切ると点滅を続けて、日付けや時間が写し込まれたことを知らせます。
- 2019年までのカレンダーが記憶されています。
- 表示は撮影のたびに写し込まれます。
- **-----** にすると何も写し込まれません。

60

## データ修正

- ②の **SELECT** ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅するところ移動しますので、修正したい数字を点滅させます。

### 点滅の順番

年月日表示のとき

時分 表示のとき

- ③の **ADJUST** ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。

- **ADJUST** ボタンは一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2~3秒後から早送りされます。
- データの修正を行なうときは、コイン等をご使用ください。
- 数字は、次のように表示されます。

年 = 87 ~ 19	[1987 ~ 2019年]
月 = 1 ~ 12	日 = 1 ~ 31
時 = 0 ~ 23	分 = 00 ~ 59

### 「年月日」表示の修正

- ②の **SELECT** ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

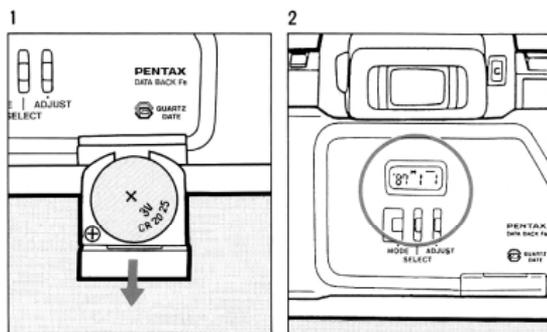
### 「日時：分」表示の修正

- ②の **SELECT** ボタンを押し、時分秒[:]表示のうち修正したい数字[秒は:]を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンを押して、数字を合わせます。
- 秒[:]を合わせるときは、④の **ADJUST** ボタンを押し、時報などに合わせて離すと0秒になります。
- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押し、点滅を止めます。

61

### クォーツデートの使用上の注意

- 「年月日」と「日時：分」は同時に写し込めません。
- デートの使用可能温度は約50°C ~ 0°Cですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- 使用できるフィルムは、感度がISO 25 ~ 1600までのものです。  
感度はカメラ側の感度設定により、自動的に合わされます。
- 高感度フィルム[ISO 1000・1600]を使ったときは写し込まれる文字がにじむことがあります。
- ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- 修正途中[点滅表示]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- クォーツデートは、リチウム電池 **CR2025** 3V を1個使用します。  
電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなったときは、新しい電池と交換してください。



### クォーツデート用電池の交換

- SFX<sub>N</sub>の裏ぶたの電池ケースを矢印方向に引き抜いて電池を取り外します。  
新しい電池の⊕側を上にして、電池ケースに入れ元の位置に「カチッ」と音がするまで差し込みます。
  - 電池を入れると、データが表示されます。表示が出ない場合は、電池の⊕⊖が正しく入っているかを確認してください。  
[データ表示の修正は61ページをご覧ください。]
- 電池は必ず決められたリチウム電池 **CR2025** を1個使用します。

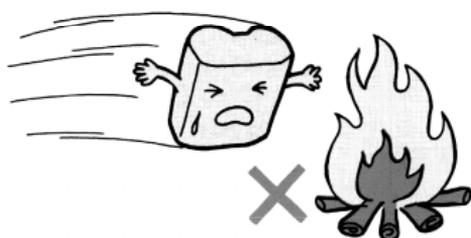
- 電池は正しく使いましょう。誤った使い方は漏液・発熱・破裂の恐れがあります。入れるときは⊕⊖を正しく入れてください。
- カメラを長期間使わないときは、カメラから電池を出しておいてください。古くなった電池は液もれを生じ故障の原因になることがあります。特にデト用電池は幼児の手の届かない所に保管してください。
- 電池を分解したり、充電したり、火の中に入れると破裂の恐れがあります。
- 単3形乾電池を交換するときは全部を一度に、同一メーカー・同一種類の電池を入れてください。新しい電池と古い電池を混ぜて使ったり、種類が違う電池を混ぜて使わないでください。

- 低温では、一時的に電池の性能が低下して容量不足になることがあります。常温に戻れば使えます。
- 旅行や野外撮影などには、予備電池を用意しておくで安心です。
- カメラバッグなどに入れるとき、シャッターボタンが押されると電池が消耗します。スイッチを○にして切っておくと安全です。
- 内蔵ストロボを連続して使うと、カメラ用電池が多少温くなる場合があります。これは電池の特性で異常ではありません。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

使用電池		2CR5	単3アルカリ
常 温 時	一般撮影	約150本	約100本
	ストロボ撮影	50%使用	約 30本
		100%使用	約 15本
	バルブ露出時間〔常温時〕		約10時間

当社試験条件による。〔24枚撮りフィルム〕



## ファインダー内および表示パネルの露出警告表示

ファインダー内表示	表示パネル	内 容
P 4000	4000 F 22	プログラム自動露出での「測光範囲外」です。そのまま撮影すると、適正露出は得られません。
P LT	1" F1.4	
A 4000	F 22	シャッター優先自動露出での「測光範囲外」または「連動範囲外」です。「連動範囲外」は、シャッター速度を変えれば撮影できます。
A LT	F1.4	「測光範囲外」は、シャッター速度を変えても点滅が消えません。そのまま撮影すると適正露出は得られません。
A 4000	4000	絞り優先自動露出での「測光範囲外」または「連動範囲外」です。「連動範囲外」は、絞りを変えれば撮影できます。
A LT	30"	「測光範囲外」は、絞りを変えても点滅が消えません。そのまま撮影すると適正露出は得られません。
M 500 125		マニュアル露出での「適正露出外」です。シャッター速度や絞りを変えて、点滅が消えて速度表示がひとつになれば適正露出で撮影できます。
M 250 60		
M 4000		
M LT		マニュアル露出での「測光範囲外」は、シャッター速度や絞りを変えても点滅が消えません。そのまま撮影すると適正露出は得られません。
P 250		メモリーロック使用中は、ファインダー内の早い点滅表示で知らせます。
P 60		バッテリー警告表示 カメラの電池が消耗して容量が少なくなったことを遅い点滅表示で知らせます。

- 警告表示はファインダー内および表示パネルの点滅表示によって知らせます。
- 測光範囲外とは、被写体の明るさが極端に明るい暗いため、カメラの露出計が働く範囲を越えている場合です。
- 連動範囲外とは、測光範囲内でもシャッター速度と絞りの組み合わせが使用限界を越えている場合です。
- 測光／連動範囲は66ページをご覧ください。
- 左表の は点滅表示です。

※測光範囲外

測光範囲外になったときの撮影方法

- 被写体が明るいときは市販のNDフィルターをご利用ください。
- 被写体が暗いときは、ストロボか他の照明光が必要です。

# SFXNと各種ペンタックスレンズを組み合わせたときの機能

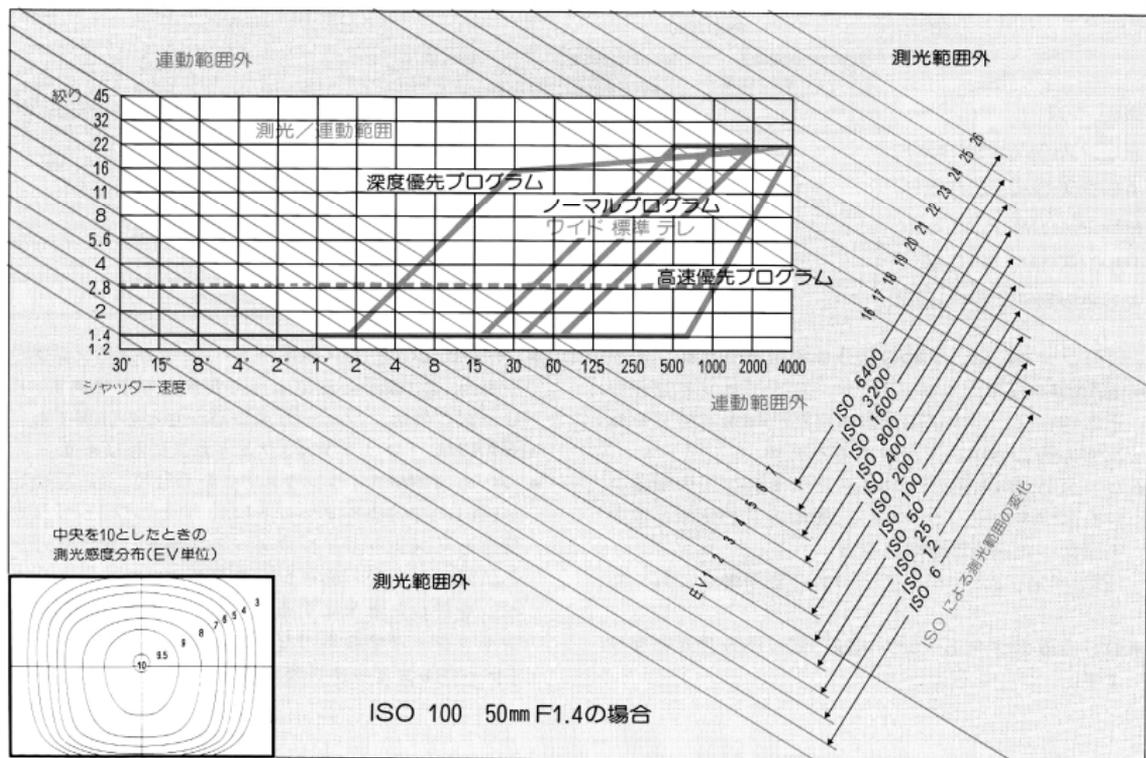
交換レンズ	露出方式		ピント合わせ方式			
	プログラム自動露出 シャッター優先自動露出	絞り優先自動露出 マニュアル露出	AF・オートフォーカス (シングル・サーボ)		マニュアルフォーカス	
				AFアダプター-1.7X を組み合わせるとき	フォーカス表示使用	マウント部分合わせ
Fレンズ(SMC PENTAX-F)	○	○	○	○	○	○
Aレンズ(SMC PENTAX-A)	○	○	×	○*	○*	○
Mレンズ(SMC PENTAX-M)	×	○	×	○*	○*	○
Pレンズ(SMC PENTAX)	×	○	×	○*	○*	○
ねじ込み旧タクマーレンズ	×	○	×	×	×	○

※印のレンズには、下記のような使用制限があります。

- **MANUAL** [マニュアル]フォーカスでピントを合わせる場合は、レンズの開放F値がF5.6を含めてそれ以上の明るいレンズが使用できます。
- レンズの開放F値がF2.8を含めてそれ以上の明るいレンズ「AFアダプター-1.7X」を組み合わせるとオートフォーカス撮影が使えます。  
[詳しくは、AFアダプター-1.7Xの説明書をご覧ください。]
- ねじ込み旧タクマーレンズは、絞り込み測光となります。

- **▶◀** フォーカス表示「F|=フォーカスインジケーション」は、表示と音によって合焦を知らせます。Fレンズ以外は、フォーカスレバーがどの位置でも、**MANUAL** [マニュアル]フォーカスになります。
- **AF** の **SINGLE** [シングル] に合わせて、K<sub>A</sub> マウント[Aレンズ]やKマウント[M、Pレンズ]レンズを使うと、「スナッピンフォーカス撮影」[被写体が来る位置にあらかじめピントを合わせ、シャッターボタンを押したままにすると、ピントの合った瞬間にシャッターが切れる。]ができます。  
[ケーブルスイッチF使用可能]

## プログラム線図・測光/連動範囲



## プログラム線図

SFX<sub>N</sub>のプログラム自動露出は、ノーマルプログラム・高速優先プログラム・深度優先プログラムの3種類があります。左図のように、太実線はシャッター速度と絞りを組み合わせたときの变化を示しています。なお、使用レンズの開放F値により、そのレンズの明るさ限界まではシャッターと絞りの組み合わせで変化します〔F2.8レンズでは、図の赤点線のようになります。〕

ノーマルプログラムは、使用レンズの焦点距離によって、ワイド・標準・テレのプログラムを自動的に切り替えます。

高速優先プログラムは、速いシャッター速度が得られるようにプログラムされています。

プログラム線図両端の細い赤実線や細い赤点線は、開放絞り・最小絞りの異なるレンズを使ったとき、またはフィルム感度〔ISO〕を変えたときのもので

す。レンズの絞り〔F1.4～F22〕の範囲が変わると、測光範囲の限界が変化します。

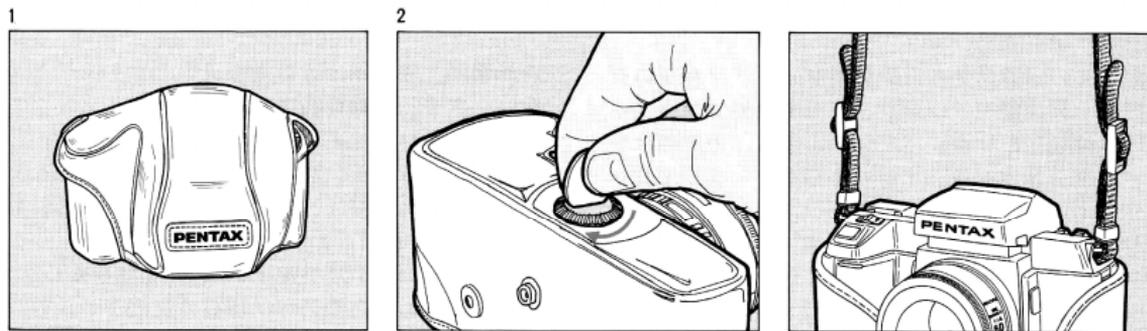
**測光範囲**とは、露出計の働く明るさの上限～下限をいいます。**連動範囲**は、測光範囲内でシャッター速度と絞りの組み合わせ可能範囲をいいます。例えば、ISO 100で50mm F1.4標準レンズを使用したときの測光範囲は、EV 1〔F1.4・1秒～EV 20〔F16・1/4000秒〕です。

フィルム感度〔ISO〕が変わると測光範囲が変わります。左図の左右傾斜線がISOの変化に従って平行移動します。枠の中が測光/連動範囲です。

EV〔Exposure Value〕

EVとは、被写体の明るさを表わす数値で、暗い所は低く、明るい所は高い数字です。

## ソフトケース



ソフトケースはバックケース〔底ふた〕とフロントケース〔前ふた〕で組み合わせられています。

1. フロントケースを開いてカメラをバックケースに入れます。
2. ケース下部の取り付けネジをコインなどで、締め付けて固定します。

- ソフトケース〔別売〕には、SFX<sub>N</sub>用とSFX<sub>N</sub>クォーツデート用があり、クォーツデート用はカメラをケースに入れたままで、表示の切り替えができます。なお、フロントケースは共用で、標準用SのほかM・Lの3種類があります。

ケース	適合するFレンズ
S	50mm/F1.4・F1.7、ズーム35～70mmなど
M	ズーム28～80mm、ズーム35～105mmなど
L	マクロ100mm、ズーム70～210mmなど

## 専用アクセサリ〔別売〕

SFX<sub>N</sub>には、各種専用アクセサリが用意されています。詳しくは、カタログ等をご覧ください。

### ● ケーブルスイッチF

SFX<sub>N</sub>・SFX・SF7用のリリースコード。

### ● マグニファイヤーF<sub>B</sub>

ファインダー中央部を拡大して見る、接写用アクセサリ。

### ● オートストロボAF240FT、AF400FTZ

AF240FTはガイドナンバー24、AF400FTZはガイドナンバー40のズームストロボ。また、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

### ● ホットシューアダプターF、延長コードF5P

AF240FTやAF400FTZをカメラから離しストロボ撮影するときのアダプターとコード。

### ● AFアダプター1.7X

F2.8より明るい、K<sub>A</sub>・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。

### ● データバックF<sub>B</sub>

日付や時間を写真に写し込むことが可能。〔SFX<sub>N</sub>は、データバックFも使用可能。〕

### ● インターバルデータバックF

日付や時間のほかにカウントなどを写し込むこともでき、さらにタイマー撮影などが可能。

### ● リモートバッテリーバックFセット

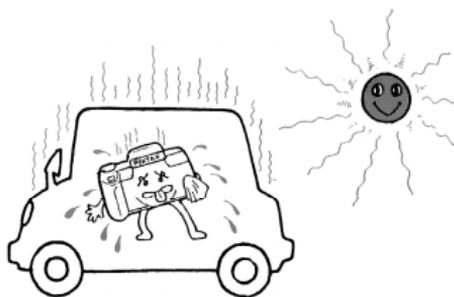
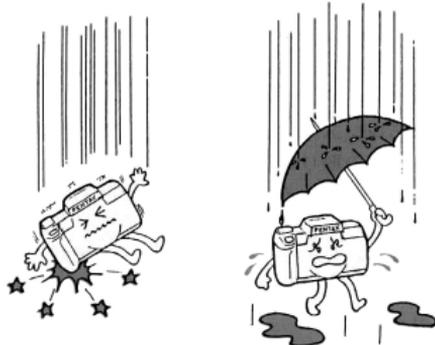
寒冷地などの撮影に使用する電池保温用のアクセサリです。〔単3形乾電池を4本使用〕

#### アクセサリの注意

- 「オートベローズA」はダブルリリースが使用できません。また、縦位置撮影のときは、SFX<sub>N</sub>のグリップ側を上にしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」を使うときは、アダプターの取り付け位置によっては、固定ネジがSFX<sub>N</sub>に当たる場合がありますので、ご注意ください。
- SFX用の「マグニファイヤーF」は使用できません。SFX<sub>N</sub>には、「マグニファイヤーF<sub>B</sub>」をご使用ください。

## 取り扱い上の注意

- カメラは精密機械です。取り扱いは充分ご注意ください。
- 落としたり、固い物にぶつけないようにしてください。もし強いショックや圧力を与えたときは点検を受けてください。
- レンズやファインダー窓のホコリはブローで吹き飛ばし、レンズブラシで取り去ってください。
- 高温多湿の所へ保管したり、長時間放置することは避けてください。特に車の中は高温になることがありますのでご注意ください。



- カメラの使用温度範囲は50°C～-10°Cです。
- 寒い外から急に暖かい部屋へ持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。このようなときは、カメラをバッグやビニール袋に入れて、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから、取り出してください。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの溶剤は使用しないでください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入ると、故障の原因になりますからご注意ください。保証期間中でも有料修理になる場合があります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

- シャッター幕やミラーには、手を触れないでください。
- 一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思われる現象が出たときは、電池の接点や各部の接点に電池の液もれや手油などによる汚れ、塩分や特殊ガスなどによる腐食、あるいはゴミなどが付いていないかチェックしてみてください。
- 汚れやゴミを取り除いても不具合の場合は、当社のサービス窓口で点検を受けてください。
- サービスサイズのカラープリントでは画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を残しておくとう安全です。
- 水没品は修理不可能の場合が多くなります。当社のサービス窓口にご相談ください。
- 高性能を保つため、1～2年毎に定期点検をおすすめ致します。長期間使用しなかったときや海外旅行など大切な撮影の前には、点検や試し撮りをされるようにしてください。

#### LCD[液晶表示]用バックアップ回路

撮影中に電池交換のために電池を抜いたときは、撮影枚数とフィルム感度は記憶回路が働きますから、合わせ直す必要がありません。

#### LCD[液晶表示]について

- 約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

## 仕様[SFX<sub>N</sub>およびSFX<sub>N</sub>クォーツデット]

型式	ストロボ内蔵マルチモードTTL AE・AF 35mm一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36mm
使用フィルム	35mmフィルム[J135パトローネ入り] 35mmDXフィルム=ISO 25～5000 DXでないフィルム=ISO 6～6400[1/3ステップ]
露出方式	プログラム自動露出[ノーマル「ワイド・標準・テレ」・高速優先・深度優先]、 シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、マニュアル露出
シャッター	電子制御式縦走りフォーカスブレインシャッター プログラム・絞り優先1/4000秒～30秒、シャッター優先・マニュアル1/4000秒～1秒、 Xシンクロ1/125秒、bulb[バルブ]、電磁レリーズ、電源スイッチ切り[OFF]でシャッターロック
レンズマウント	ペンタタックスKAFマウント[AFカプラー・レンズ情報接点付Kマウント]
使用レンズ	SMCペンタタックスFレンズ[SMCペンタタックス・A・Mレンズ…従来のK <sub>A</sub> ・KマウントレンズのうちF5.6以上の明るいレンズはフォーカス表示による撮影が可能。F2.8以上の明るいレンズはAFアダプター1.7×によりAF可能。]
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式 オートフォーカス作動輝度範囲EV2～18[ISO 100] ピント合わせ[AFシングル・AFサーボ・マニュアルの3種類]
ファインダー	ペンタプリズムファインダー アスフェリック・マイクロマットフォーカシングスクリーン[交換式] 視野率 縦・横92% 倍率0.8×[50mm F1.4・∞]視度調節式 +1.5～-2.5D[ディオプトリー]
ファインダー内LED表示	フォーカス表示[FI=フォーカスインジケーション] [  ] 合焦表示[緑ランプ表示] [  ] 前ピン・後ピン表示[赤ランプ表示] プログラム自動露出 = [  ] 4000～LT シャッター優先自動露出・絞り優先自動露出 = [  ] 4000～LT、 マニュアル露出 = [  ] 4000～LT メモリーロック表示=表示LED点滅、露出補正表示 = [  ] が表示、 [  ] =ストロボ充電完了表示 手ぶれ警告=30～LT橙色表示、測光連動範囲外=4000またはLTが点滅表示
LCD表示パネル	プログラム自動露出 = [  ] 表示、ノーマル= テレ [  ]・標準 [  ]・ワイド [  ] 表示 高速優先 = [  ] 表示 深度優先 = [  ] 表示 シャッター優先・絞り優先自動露出 = [  ] 表示、マニュアル露出・125[1/125秒]・bulb[バルブ] = [  ] 表示 シャッター速度=4000～30'表示、バルブ=bulb表示、ISO=6～6400表示 絞りF値=1.2～90表示、露出補正=+4～-4、シャッター・絞り優先マーク = [  ] 表示 セルフタイマー撮影 = [  ] 表示、1コマ撮影 = [  ] 表示、連続撮影 = [  ] 表示、オートブラケット撮影 = [  ] 表示、トリプルセルフタイマー撮影 = [  ] 表示、 電池消耗 = [  ] 表示、DXマーク = [  ] 表示 パトローネ・フィルム走行・巻き取りマーク = [  ] 表示、フィルム枚数・[セルフタイマー] =0～99表示、LCD照明有り[MLボタン押しにより、約8秒間照明]

セルフタイマー	始動はシャッターボタン、電子式赤ランプ表示、作動時間約12秒[点滅・音・減算表示]、作動後解除可能、トリプルセルフタイマー機能により、3コマ連続撮影が可能[ストロボ使用可能]
ミラー	スイング上昇式、クイックリターンミラー、オートフォーカス用第2ミラー付
フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付
巻き上げ・巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式 1コマ撮影 連続撮影(約2.2コマ/秒)、フィルム終了時自動停止、巻き戻し時間は24枚撮りフィルムで約20秒、巻き戻し完了時自動停止、フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示
露出計・測光範囲	TTL中央重点測光、受光素子GPD、50mm F1.4 ISO 100 EV1(F1.4・1秒)~20(F16・1/4000秒)
露出補正	±4EV(0.5EVごとに表示)
オートブラケットティング	適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能[±0.3EV~±4EVの範囲]
メモリーロック	ボタン式(ボタンを押している間ON)、表示中シャッターボタンを軽く押すとメモリーロック継続
ストロボ	並列制御TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー14[ISO 100/m]35ミリレンズをカバー、充電完了表示ランプ付、同調速度1/60秒・1/125秒へ自動切り替え、日中シンクロ・マニュアルで低速シンクロ可能 不適合レンズの場合、充電完了表示が点滅警告[Fレンズ使用時]
シンクロ	ホットシュー[X接点 専用ストロボ接点付]専用ストロボ連動
電源	6Vリチウムパック電池(2CR5) 1個(標準仕様) 単3形アルカリ乾電池(LR-6) 4本[別売り単3バッテリーグリップF <sub>B</sub> 使用時]
電池消耗警告	バッテリーマークおよびファインダー内LED[点滅警告]表示、 交換可能、[データバックF <sub>B</sub> 、インターバルデータバックF]
裏ぶた	
大きさ・重さ	154.5[幅]×99[高]×63.5[厚]mm 665g[ボディのみ、電池別]
付属品	ホットシューカバー-SFX、リリースソケットキャップF、アイカップF、カメラストラップF

#### クォーツデート(デート仕様)

デート機構	クォーツ制御・液晶表示式・デジタル時計・オートカレンダー[西暦2019年まで、閏年は自動修正]
データの写し込み方法	7セグメント6桁LCD[液晶]、フィルム背面より写し込み
データ表示	データ表示窓にLCD[液晶]表示、表示写し込み時 — マークが2~3秒間点滅
データの種類	①年・月・日、②日・時・分、③……[データ写し込み無し]、④月・日・年、⑤日・月・年 年月日[年=87~19(1987~2019年)、月=1~12、日=1~31、時分[時=0~23 分=00~59]
使用フィルム感度	ISO 25~1600[感度自動セット]
データ電源	CR2025型[リチウム電池] 1個
発光回数	約5000回
大きさ・重さ	154.5[幅]×99[高]×66.5[厚]mm 685g[ボディのみ、電池別]

73

## こんなときは?[詳しくは、各ページをご覧ください]

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因	処置	参照ページ
シャッターが切れない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	11ページ
	バッテリー警告  が点滅している。	電池を交換してください。	7ページ
	フィルムの最後まで撮影が終わっていない。	フィルムを取り出してください。	26ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	6ページ
	フォーカスレバーが <b>SINGLE</b> [シングル] でピントが合っていない。	ファインダーの  表示を確認して撮影してください。	18ページ
	セルフタイマーや  トリプルセルフタイマーになっている。	セルフタイマーや  トリプルセルフタイマーを解除してください。	52ページ
	フィルムが正しく入っていない。 <b>E</b> 表示が点滅している。	フィルムを正しく入れ直してください。	24ページ
表示パネルに表示が出ない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	11ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	6ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	7ページ
ピントが合わない。	被写体を  フォーカスフレームに合っていない。	被写体を  フォーカスフレームに入れて、撮影してください。	18ページ
	被写体に近づき過ぎている。	被写体から離れてください。	18ページ
	ズームレンズが、マクロになっている。	マクロを解除するか、カメラの位置を前後してみてください。	レンズ説明書参照
	フォーカスレバーが <b>MANUAL</b> [マニュアル] になっている。	フォーカスレバーを <b>SINGLE</b> [シングル] か、 <b>SERVO</b> [サーボ] にしてください。	16ページ
	オートフォーカスの苦手な被写体	フォーカスロックを使うか、マツト部分でのピント合わせや内蔵ストロボ[A F スポットビーム]などをご利用ください。	20ページ 32ページ 46ページ

症状	原因	処置	参照ページ
ピントが合わない。	ファインダーの視度が合っていないため、像がハッキリ見えない。	視度調整レバーでファインダーの視度を合わせてください。	10ページ
フォーカスロック〔ピント固定〕ができない。	フォーカスレバーが <b>SERVO</b> 〔サーボ〕になっている。	フォーカスレバーを <b>SINGLE</b> 〔シングル〕にしてください。	16ページ 19ページ
内蔵ストロボが光らない。	内蔵ストロボが充電されていない。	充電完了ランプを確認してから撮影してください。	29ページ
	ストロボ光が遮られるフレンズ〔ズーム・望遠・マクロ〕を使用している。	広角35mmから、望遠210mmまでのフレンズをご使用ください。 〔マクロレンズを除く〕	30ページ
内蔵ストロボが充電しない。	電池が消耗している。	電池を交換してください。	6ページ
	シャッターボタンを押したままにしている。	シャッターボタンから指を離してください。	30ページ
ファインダー内の全LED表示が点滅する。	電池が消耗している。	電池を交換してください。	6ページ 64ページ
ファインダー内のシャッター速度〔数字〕が点滅する。	自動露出撮影での連動範囲外・測光範囲外または、マニュアル露出撮影での適正露出外るとき。 〔そのまま撮影すると、適正露出は得られません〕	自動露出の連動範囲外やマニュアル露出のときは、シャッター速度や絞りを調節してください。 測光範囲外の場合は、NDフィルターやストロボなどで光量調節をしてください。	37ページ 39ページ 41ページ 64ページ
オートブラケット撮影ができない。	露出方式が <b>M</b> マニュアル露出や <b>125</b> 〔1/125秒〕または <b>bul.b</b> パルブになっている。	露出方式を <b>P</b> プログラム自動露出や <b>A</b> シャッター優先・絞り優先自動露出にしてください。	34ページ 35ページ 49ページ
<b>bul.b</b> パルブにできない。	セルフタイマーや  トリプルセルフタイマー、 オートブラケット撮影になっている。	1コマ撮影または  連続撮影にしてください。	43ページ

75

## お問い合わせは次の各サービス窓口へ



### ■ 営業時間：●ペンタックスフォーラム(新宿)

午前10時30分～午後6時30分  
(原則として年末年始を除き年中無休)

- ペンタックスフォーラム・大阪  
午前10時～午後6時(日・祝日休業)
- 各サービスセンター  
午前9時～午後5時(土・日・祝日休業)
- ペンタックスギャラリー  
午前10時～午後5時(日・祝日休業)



### ペンタックスフォーラム

(ショールーム・写真展・修理受付)  
☎03(3348)2941(代)  
〒163  
東京都新宿区西新宿2丁目1番1号  
新宿三井ビル1階(私書箱240号)



### 東京サービスセンター

☎03(3571)5621(代)  
消費者相談室  
☎03(3572)6479  
〒104  
東京都中央区銀座西8丁目10番地



### 札幌サービスセンター

☎011(241)8742(代)  
〒060  
札幌市中央区  
大通西8丁目1番地1号  
朝日生命札幌大通ビル4階



### 仙台サービスセンター

☎022(261)5681(代)  
〒980  
仙台市青葉区中央2丁目2番10号  
仙都会館4階



### 新潟サービスセンター

☎025(224)8391(代)  
〒951  
新潟市本町通七番町1153番地  
日本信販新潟ビル4階



### 横浜サービスセンター

☎045(681)8771代  
〒231  
横浜市中区不老町1丁目6番9号  
横浜エクセレントVビル3階



### 静岡サービスセンター

☎054(255)6308代  
〒420  
静岡市伝馬町2番2号  
住友建設ビル5階



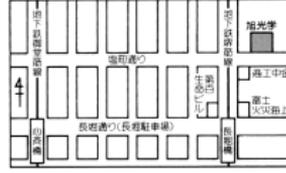
### 名古屋サービスセンター

☎052(222)5331代  
〒461  
名古屋市中区泉1丁目19番8号



### 金沢サービスセンター

☎0762(22)0501代  
〒920  
金沢市尾張町2丁目8番23号  
太歳生命ビル6階



### 大阪サービスセンター

☎06(271)7996代 (修理受付)  
〒542  
大阪市中央区南船場1丁目17番9号  
ペンタックスフォーラム・大阪  
(ショールーム・写真展)  
☎06(271)3960



### 広島サービスセンター

☎082(248)4321代  
〒730  
広島市中区大手町3丁目7番2号  
大東京火災広島ビル8階



### 福岡サービスセンター

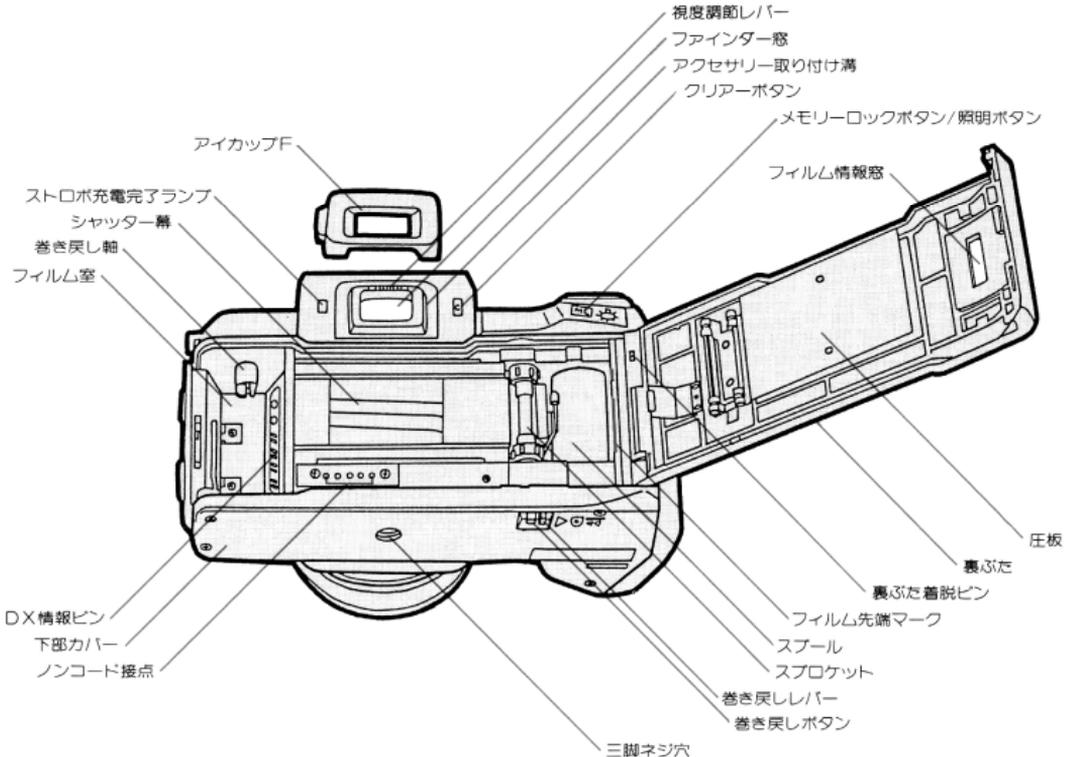
☎092(281)6868代  
〒810  
福岡市博多区中洲中島町3番8号



### ペンタックスギャラリー

(カメラ博物館)  
☎03(3401)2186  
ファミリー (写真クラブ)  
☎03(3401)2187  
〒106  
東京都港区西麻布3丁目21番20号

各部の名称 [クォーツデイト部の名称は60ページをご覧ください。]



- 旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリが展示され、手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
  - 他社製品〔レンズ、アクセサリ等〕との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。
1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお送りください。なお、不良見本のフィルムやプリント、また、故障内容は正確にメモして添付していただくと原因分析に役立ちます。
  2. 保証期間中〔ご購入後1年間〕は保証書〔販売店印、および購入年月日が記入されているもの〕をご提示ください。保証書がないと、保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用は、お客様にご負担願います。
  3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。なお運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
  4. 本製品の補修用性能部品は、製造打切り後、10年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても、修理可能な場合もありますから、当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
  5. 外国旅行をされる場合、各サービス窓口ではお手持ちの保証書と交換に、国際保証書を発行致します。〔保証期間中のみ有効〕なお、特定の旅行先でのサービス窓口の住所については、お問い合わせください。



**旭光学工業株式会社**

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号

**旭光学商事株式会社**

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号